週刊 YEARBOOK

1921
大正10年

日録20世紀

5|26
平成10年5月26日発行
(毎週1回発行)第2巻第19号
¥560
講談社

皇太子、20歳の「欧州巡遊」

テロ続発! 安田善次郎と原敬首相の暗殺
夫を捨てた美貌の歌人、柳原白蓮の「不倫」劇
チャップリンの大傑作「キッド」、大当たり!

6ヵ月にわたる「生涯の一番楽しい思い出」
新しい皇室の“シンボル”を印象づけた
皇太子、20歳の「欧州巡遊」

昭和天皇が戦後、幾度かの記者会見で語られた「生涯の一番楽しい思い出」——欧州巡遊が決定され、宮内省告示第二号「御徒航」として公表されたのは大正一〇年二月一五日。旅程は六ヵ月。それは日本で最初の政党内閣を組織した原敬と山県有朋らの元老たちが、皇太子の国際的視野を広めるために実現した、皇室始まって以来の歴史的な壮挙であった。

▲5月27日、ロンドンのリージェンツ・パーク植物園で開かれた、在留邦人の歓迎会にて。 毎日新聞社

英国やフランスなど各地で大歓迎の人波

若き昭和天皇が、皇室として初の欧州巡遊に出発したのは、大正一〇年三月三日のこと。天皇は当時、皇太子裕仁親王として、東宮御学問所終了直後の、一九歳の成年皇族であった。

出発の当日、横浜港には縦横に万国旗が張りめぐらされ、桟橋の正面には地球儀が飾られた大アーチ、欄干は紅白の段だらに彩られていた。天候は薄曇り、時折、雲間から春光が射していた。

午前一〇時二〇分、東京駅を出発した御召し列車が神奈川駅を通過すると、二一発の皇礼砲が轟き渡り、臨港線の両側を埋めつくした数万の人々に対し、皇太子は車窓に起立し挙礼でこたえられた。

御召し列車が横浜港の税関第四号上屋前仮停車場に到着したのは、一〇時三〇分。その後、桟橋から軍艦「山城」の艦載水雷艇で横浜港内に投錨する御召し艦「香取」（一万二〇〇〇トン）に向かわれ乗艦する。

海軍少佐の軍服を着た皇太子が、甲板に上がると、マストには赤地に菊の花をあしらった皇太子旗がひるがえった。出航時刻の一一時三〇分には、港内に碇泊する艦船や、工場では一斉に汽笛を鳴らし、大空に花火が絶え間なく炸裂した。そして御召し艦は、小栗孝三郎第三艦隊司令長官が先導する供奉艦「鹿島」に続

▲5月16日、ロンドン郊外のケンレー飛行場で飛行術の妙技を見学される皇太子。この後、グリニッジ天文台なども訪問された。 横堀洋一提供（下2点とも）

▲ロンドンで撮影された、訪欧の記念写真。皇太子の洋服は、英国到着の1週間前に採寸、ロンドンで仮縫いして届けられたという。

▶5月15日、チェッカースにあるロイド・ジョージ英首相の別邸にて首相夫妻と。右端は珍田捨巳供奉長、二人目は閑院宮載仁親王。

◎表紙　大正10年5月9日イギリスに到着、出迎えの国王・ジョージ5世とともに、バッキンガム宮殿に向かわれる皇太子。

き、港外へと姿を消していった。

一路イギリスに向かった御召し艦が、その後二度と訪れることができず、昭和天皇の「最大の心残り」となった沖縄を皮切りに、香港、シンガポール、コロンボ、アデンを経由し、紅海に入り、スエズ運河を通過して地中海のマルタ島に寄港したのは四月五日。四月二九日には御召し艦上で二〇歳の誕生日を迎えられた。

御召し艦が目的地であるイギリス・ポーツマス港の桟橋に横づけになったのは、五月七日のことであった。その後、五月九日午前一〇時すぎに皇太子を乗せた宮廷列車がロンドンに向かうと、鉄道沿線はもちろん、線路に面する家々からも歓声が湧き上がった。ロンドンのビクトリア駅にはイギリス国王・ジョージ五世（五六）と第二王子で後にジョージ六世となったヨーク公（二六）らが出迎え、バッキンガム宮殿までの道程を、ジョージ五世と馬車に同乗し、歓迎の大群衆にこたえたのである。

その夜、バッキンガム宮殿では歓迎の晩餐会が催された。席上、皇太子は、「同盟国として、東洋の平和という大業をはたすにあたり欠かせない大国を初めて訪問でき、本当にうれしい」と感謝の辞を述べられた。

国賓第三日目には、ロンドン市の歓迎会がギルドホールで開かれ、一〇〇〇人近い名士がつどい、親交を深められた。

そして、大英博物館の見学、ロイド・ジョージ・イギリス首相を訪問、イギリス滞在の最終日にはアジントン・ゴルフ場でプレーを見学するなど、二〇日間の日程をこなされた。

その後、フランス、ベルギー、イタリアを訪問した皇太子は、それぞれの国で大歓迎を受け、九月三日に帰国する。この日、御召し艦は午前九時に横浜港に到着。東京で待ちわびる歓迎の人波は、↖

▲3月6日、最初の寄港地・沖縄にて。人力車で首里の旧王城などを見学するため、尚侯爵邸を出発される皇太子。 横堀洋一提供

6ヵ月にわたる「生涯の一番楽しい思い出」
新しい皇室の〝シンボル〟を印象づけた

皇太子、20歳の「欧州巡遊」

宮城外苑（現・皇居前広場）を埋めつくしたのである。

帰国後、摂政就任 新しい皇室を代表

昭和天皇は明治三四年四月二九日、皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）の第一皇子として生まれた。生母は節子（後の貞明皇后）で、迪宮裕仁親王と命名され、明治四一年学習院初等科に入学、大正三年卒業と同時に東宮御学問所に学んだ。

そして、大正五年一一月三日に立太子礼、満一八歳の八年五月七日には、成年式をあげた。

父・大正天皇は生涯を通じて病弱だった。大正三、四年頃になると歩行もままならず、会話もできない時が多かった。明治天皇が、裕仁親王に期待をかけたのは当然で、学習院に明治の軍人・乃木希典を招き、厳しい教育をするよう命じたとも言われている。

当時のヨーロッパには、第一次大戦後のつかの間の平和が訪れていたが、イギリスでは戦争景気はすぎ去り、失業者は一八〇万人に達し、ウェールズの炭坑労働者は長期ストライキに突入していた。しかしイギリスは日英同盟を高く評価し、皇太子の訪英を温かく迎えたのである。

一方で日本には、皇太子の訪欧に踏み切る事情があった。

「大正六年にはロシア革命で、ロマノフ王朝が打倒されました。また、第一次大戦の敗戦国、ドイツでは大正七年に皇帝が退位してホーエンツォレルン家が倒れ、オーストリアのハプスブルク王朝も崩壊するなど、君主制が世界的に危機におちいったため、皇室のあり方が問われていました。皇太子には、ヨーロッパの状況や王室のあり方を学んでくることが要請されたのです。また、英明で平民的な新しいイメージを定着させるためでもあったのです」

こう語るのは神戸大学文学部教授の鈴木正幸氏である。皇太子の訪欧は大成功であった。帰国後の一一月二五日、天皇の代理役である摂政に就任した皇太子は、国民の目に「我らが摂政宮」として、新しい皇室のシンボルとして映っていた。

そして大正一三年一月二六日、皇太子は久邇宮邦彦王の長女・良子女王（現・皇太后）と結婚、一五年一二月二五日には大正天皇の崩御にともない、一二四代の皇位を継承し、激動の昭和へと船出されるのである。

▲5月29日英国滞在の最終日は、アジントン・ゴルフ場で競技を熱心に観戦された。 毎日新聞社

▶訪欧の途中、英統治下のエジプトを訪問。四月一八日、カイロでスフィンクスを撮影中の皇太子。 「イリュストラシオン」

▲5月9日、バッキンガム宮殿で手に手に旗を振り、故国のプリンスを奉迎するロンドンの在留邦人たち。

「欧州巡遊」エピソード集

携帯した勲章はなんと500個

欧州巡遊に際して用意された進物の品々は、美術品三百余点など膨大な数にのぼった。中でも、トランクに納められた勲章は約500個。大勲位菊花章頸飾が英国のウェールズ第1王子らに、そして第1次大戦の英雄、仏軍元帥のペタン、英陸軍元帥のウィルソンには勲一等旭日桐花大綬章が授けられた。

デッキ・ゴルフが大のお気にいり

長い航海中の皇太子の生活ぶりは、朝6時に起床、夜12時就寝という規則正しいもの。午前中は、英・仏語の勉強、西洋料理のテーブルマナーの特訓などにあてられたが、お気にいりは午後のデッキ・ゴルフ。供奉員の西園寺八郎らを相手に、ほとんど毎日のように興じられたという。

9匹もの子犬出産の大騒ぎ

訪欧からの帰路の8月末、英国で買い上げた8匹の犬の中のネリという雌犬が、9匹の子犬を出産し大騒ぎになった。側近が9匹も母親の乳では育てられないから4匹くらいを残してほかは海に捨てようとしたところ、「生を受けてこの世に出たものを、捨てるのはかわいそうだ。ミルクでも与えて飼育せよ」との皇太子の指示。その後9匹とも大事に育てられ、帰国後は東宮御所へと送られた。

◀御召し艦「香取」。ワシントン軍縮条約で廃艦・解体される。

大正デモクラシーの「暗部」
“銀行王”“平民宰相”にテロ相次ぐ
安田善次郎と原敬、暗殺！

▲大正10年8月13日、地元・盛岡の大慈寺にて。盆詣でのための最後のお国入りとなった。原は南部藩家老職の生まれだが、分家して平民だったため「平民宰相」と呼ばれた。 原敬記念館提供

「板垣死するも日本の自由は滅せざるなり」の名セリフを吐いた板垣退助、飛び道具に見舞われながら「男子の本懐」と語った浜口雄幸、「話せばわかる」と声をかけながら若手将校に射殺された犬養毅――日本の近・現代史はテロと切っても切れない関係にある。この年暗殺された二人の要人も、大正という時代の潮流の中で露と消えていった。

白髪を血に染めて惨死した“愛銭家”

大正一〇年九月二八日の午前九時二〇分頃、神奈川県大磯の別邸で目をさました安田財閥の創始者・安田善次郎（八二）は、玄関から五室ほどへだてた一二畳間で新聞を拾い読みしていた。

「岡警視総監と渋沢栄一子爵の紹介で参ったものですが、ご主人にご面会したい」

訪ねてきた男は、“弁護士の風間力衛”と名乗ったが、羽織・袴姿で、脇に折鞄を抱えていた。顔色は青白く、こめかみを微妙に震わせていたという。

惨劇が起きたのは、お手伝いさんがお茶とカステラを運んでから三〇分後。悲鳴と大きな物音に家人が驚いて駆けつけると、顔を切られ白髪を真紅に染めた安田に、馬乗りになった男が止めの一撃を加えていた。男は「近寄ると殺すぞ」とすごんだ後、返す刀で頸動脈をかき切って自殺する。

現場にあった折鞄から、刺客が朝日平吾（三二）という国士で、「営利に没頭して、国をかえりみない安田はけしからん」と、前から暗殺をたくらんでいたことがわかる。↖

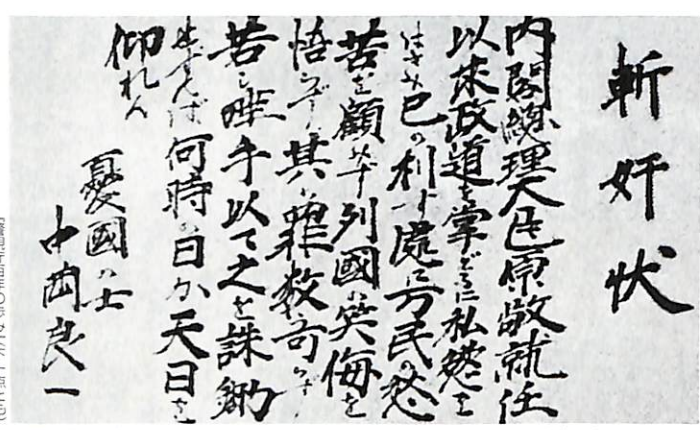
殺された安田善次郎は、貧しい商人から身を起こして安田銀行（現・富士銀行）や東京火災、東京建物といった会社を創設。勢力下の銀行が四〇行以上にのぼる“安田財閥”を築いた大物財界人。億万長者になっても、黒パンと麦汁を毎日食する倹約家で、社会事業に見向きもせず金を儲け続けた。究極の拝金主義は、同じ財界からも白眼視されていた。

凶報に接した大倉財閥の創始者・大倉喜八郎（八四）は、「安田は金を握ったら放さん主義で、慈善事業への出資が全然なかったからいけない」と言い放ち、財界の大御所・渋沢栄一（八一）は「あれだけの資金と勢力を国家に用いていたら」と語った。

親交のあった人がその調子では、民衆から同情の声があがるはずもなく、暗殺を伝える号外が出た時は、「大馬鹿者が殺された。面白い号外！」と、東京・本所横網にある安田の本邸前で聞こえよがしに叫ぶ号外売りまでいた。

さらに死後は、「地元の祭りに一五円しか寄付せず、憤慨した若い衆が神輿をかついで本邸に暴れこもうとした」から、「ふさこ夫人が倒れたのは、安田の留守をいいことに、食べ慣れない米飯と海老フライにありついて胃が衝撃を受けたから」まで、さまざまな“悪評”が噴出するありさま。

対照的に、「今の政治は富豪政治である。民衆政治でなければならぬ」と記し、“一人一殺”のテロリズムを賛美する遺書を残して息絶えた朝日を擁護する声は多かった。全国の労働団体や同情者が「安田に負けない葬儀をしよう」と一〇月四日に行われた朝日の告別式に駆けつけたのである。

とはいえ、まさかこの“銀行王”の死が、現役首相暗殺の導火線になるとは、誰も想像だにしていなかった。

▲原首相を暗殺した中岡艮一の斬奸状。安田暗殺が、犯行の引き金となった。

『警視庁百年の歩み』（下一点とも）

▶中岡が使用した短刀。右胸部を突いた刃は、深く心臓をえぐった。

▼中岡（右）と暗殺を教唆した橋本栄五郎の公判。橋本は無罪、中岡は無期懲役となるが、3回の恩赦で昭和9年に出所する。

◀11月9日、盛岡で行われた原敬の葬儀。前夜来の雪が降りしきる中、柩は白丁にかつがれて本邸に向かった。
「写真通信」

現役首相を一撃で刺殺！テロにあこがれた一九歳

「総理を殺すのか」——上司である橋本栄五郎助役のひとことに、大塚駅の転轍手、中岡艮一（一九）は身震いした。

安田を殺した朝日への賞賛が巷で渦巻いていた一〇月のある日、職場で原敬首相（六五）や与党の立憲政友会への義憤をぶちまけていた中岡に、橋本は「政界の汚れを清めるのは若いもんの直接行動に限る。お前のけっすん（決心）すだいで決まるんだ。口だけなら誰でも言える。俺が若くばなぁ」とけしかけたという。

原は、明治以来の藩閥勢力に対抗して大正七年九月、初の政党内閣の首相として登場。以来、第一次世界大戦の処理や物価調整などを鋭い現実感覚でさばいてきた。爵位のない「平民宰相」と呼ばれた反面、産業優遇政策と公共事業のばらまきで資本家をスポンサーにし、選挙で政友会の勢力を拡大。その金権体質は、与党議員の汚職が露呈したこともあって、青年層から反感をかっていた。

原への一般の憎悪を決定的にしたのが、普通選挙運動つぶしだ。当時は、納税額三円以上の男子に選挙権がある制限選挙。そこで、野党が大正九年二月に普選法案を提出すると、原は議会を解散。総選挙に持ちこみ、普選運動の出鼻をくじく。その独裁的手法に非難が高まる中で、事件は起こった。

大正一〇年一一月四日午後七時二五分、政友会近畿大会に出席するため東京駅の改札を通った原を、柱の陰から疾走してきた中岡が刺殺。駆けつけた医者が、「おかくれになりました」と告げたのは七時五〇分。〝西にレーニン、東に原敬〟と言われた独裁者のあっけない最後だった。

政治評論家で原と親しく接した前田蓮山は、事件について、「刺殺方法は達人に仕込まれたに違いないというのが一般の意見だった。検事局が犯人の背後を追及しないのは、自分の命も危ないと考えたからだろう」と〝アンチ原〟勢力の思惑を指摘したが、真相は不明だった。

結局、「汚職にまみれた政治を改革したかった」と陳述した中岡には、翌大正一一年六月、無期懲役の判決が下される。

いずれにせよ、この年、要人がたてつづけに殺された背景には、劣悪な労働条件を押しつけて儲ける資本家や、民意を無視する政治家への憤り、それに起因するデモクラシー運動の高揚があった。

「中でも原は、普通選挙を阻止したことが象徴するように、民衆に対しては無慈悲な首相でした。政党の発言権を飛躍的に高めた功績はたしかにあるが、疑獄が続出しても平然と居座り続け、中央でも地方でも党利本位に政治や行政を進めるその横暴に、多くの民衆が反感を抱いたのは間違いない」と指摘するのは、歴史学者の今井清一横浜市立大名誉教授だ。

と、同時に政と財の腐れ縁や利益誘導型政治の雛型を作った原の死は、政党政治の暗雲を予感させる出来事でもあった。

▶安田善次郎とふさ子夫人。本邸庭園にて。安田は、保善社を中核とする財閥を一代で築いた。

▶本邸表門。敷地四五二一坪の広大な本邸は、東京市長の後藤新平に寄贈され、安田庭園となった。

女たちの肖像

〝銀幕のヒロイン〟第一号 松竹蒲田の「虞美人草」で栗島すみ子、デビュー！

稲葉真弓

この年の二月、創業まもない松竹蒲田撮影所で、一本の映画の撮影が進んでいた。タイトルは「虞美人草」。主演は松竹の二枚目スターとして知られていた岩田祐吉、相手役は新人女優の栗島すみ子（一八）。監督はアメリカ帰りの撮影技師、ヘンリー小谷だった。四月二九日、映画が封切られるとたちまち大ヒット。日本初のサイン入りブロマイドは飛ぶように売れ、栗島すみ子はこの一作で〝銀幕の恋人〟としてまつり上げられた。

ヒットの理由はいくつかあった。これまでの日本映画は、撮影技術に問題があり画面に陰影が乏しかったが、ヘンリー小谷はハリウッドで学んだ最新のカメラ技術を導入、明るく生き生きした映像作りに成功した。女形を使わず本物の美しい女性を起用したのもこれが初めてで、観客は生身の女優の登場に熱狂。さらに、悲恋メロドラマの内容に、〝超近眼〟だったすみ子のうるんだ瞳や、舞踊仕込みのなよやかな姿態がぴったり合ったことも大きな要因だった。

ところが栗島すみ子本人は、このデビューに乗り気ではなかったという。

明治三五年、東京・渋谷に生まれた彼女は、相撲記者として著名な父親の栗島狭衣（本名・山之助）が文士劇の一座を組織したことから、六歳で芝居に出演。舞踊の水木流にも入門した。幼い頃から舞台になじんだすみ子にとって、正念場は檜の板の上だけ。「活動（映画）なんて落ちぶれたことができますか」と、松竹から口説かれた時は情けなくて涙が出たと後に語っている。

「虞美人草」の成功の後、彼女は、「山へ帰る」「不如帰」などの話題作にたてつづけに主演、大正一二年には小唄映画の第一号「船頭小唄」が一世を風靡、後世に残る大ヒット作となった。同年の関東大震災後、何度かコンビを組んだ監督の池田義信と結婚。人気にかかわるからと公表できぬまま、生まれたばかりの子どもも人に預けて、トップスターの座を守り通したのである。

昭和に入ってからは、小津安二郎、成瀬巳喜男の作品にも主演したが、昭和一〇年、撮影所が大船に移転する記念にと作られた映画「永久の愛」を最後に引退を表明。「いつまでも〝永遠の恋人〟のイメージを残そう」という夫の意見に従っての幕引きだった。引退後は水木流宗家として、女優の淡島千景、池内淳子らを育て、昭和六二年、八五歳の生涯を閉じた。

▲松竹蒲田の秘蔵のスターだった。

勝者・敗者

日本テニスの黄金時代！「世界の」熊谷、清水がデビスカップ決勝に進出

阿部珠樹

今からほぼ七五年前、日本テニス界は空前の黄金時代を迎えていた。まず、一九二〇年アントワープ・オリンピックで、熊谷一弥がシングルスで銀メダル、ダブルスでも熊谷と柏尾誠一郎が銀メダルを取り、世界を驚かせた。同じ年のウィンブルドン大会オールカマーズ決勝（選手権者への挑戦権決定戦）では、初出場の清水善造がアメリカのチルデンと死闘を繰り広げたすえ、準優勝。その余勢を駆ってのぞんだのがこの年、一九二一年のデビスカップだった。

デビスカップは一九〇〇年に創設された男子テニスの国別対抗戦で、一九一〇年代に入ると、ヨーロッパ諸国やインド、オーストラリアが参加し、次第に権威を持った大会になっていった。その大会に、日本は、「世界の」熊谷（三〇）と清水（三〇）、二人のエースを送りこんだのである。

デビスカップは、シングルス四試合、ダブルス一試合の五試合制。普通は三～四人の選手でチームを構成するのが一般的だったが、日本は飛び抜けた力を持つ熊谷、清水にすべてを託した。二人はそれぞれがシングルス二試合にダブルス一試合、計三試合という過酷な日程で戦わなければならなかった。

しかし、二人の力は段違いで、挑戦者決定ラウンド一回戦ではインドを三連勝で退ける。続く相手は強豪のオーストラリア。これに勝てば前年優勝のアメリカとカップをかけて戦うことになる。ダブルスを終わって二勝一敗、残るシングルスでひとつ勝てば決勝進出。八月二七日、アメリカ・ニューポートのコートには銀メダリストの熊谷が立っていた。相手は正確なショットが武器のアンダーソン。熊谷は第一、第三セットを失い追いつめられたが第四、第五セットを軟式仕込みの変則グリップから繰り出すクセ球と冷静な試合運びで勝ち取り、ついに決勝進出を決めた。

九月二日からのニューヨークでのアメリカとの決勝は、さすがに相手が強く、三連敗して敗退したが、それまでの戦いぶりは、チームとしての日本の強さを世界に印象づけるものだった。

▶デ杯決勝で対戦した、チルデンと清水善造。清水は逆転で惜敗した。
「庭球100年史」時事通信社

「写真通信」

「写真通信」

◀「美貌横綱」凰、断髪式（1月30日）土俵入りの華麗さと、軽量によるハラハラ相撲のすえに繰り出す絶妙のケンケン（掛け投げ）が人気を呼んだ。優勝2回。33歳。写真は断髪後、夫人・長男と。

▲ドイツの日本向け賠償船、横浜入港（1月30日）排水量2万9000トン、1等船室が462室もある豪華客船。第1次大戦の敗戦国にベルサイユ条約が科した、天文学的賠償金の一端だった。

「写真通信」

木挽社提供

▲大阪砲兵工廠向上会が普選宣伝デモ（1月23日）幹部が12台の車に分乗、「死力を尽くして断行」と書いたビラを配った。納税要件の撤廃をめざす普選案は、否決が続く。

▶三高対一高の野球（1月6日）京都・三高校庭で行われた第14回対抗戦で、三高が11回に勝ち越し、4対3で逃げ切った。写真は2回、本塁に突入して憤死した三高の広瀬。

「写真通信」

▲志賀直哉「暗夜行路」の連載開始（1月）雑誌「改造」1月号に、「武者小路実篤兄に捧ぐ」と記して書き始めた。不義の子が、宿命的過失に苦悩し自己回復をはかる、志賀唯一の長編。千葉・我孫子弁天山の自宅書斎にて。

▶桂春団治、吉本専属に（1月）2万円の前渡し金のほか、借金はすべて肩代わり、月給700円の破格の待遇だった。42歳。軽妙洒脱な落語と、「後家殺し」の異名を生んだ女性遍歴が、かえって人気を高めていた。

吉本興業提供

大正10年1月

1（土）●千葉県千葉、栃木県足利、市制施行。
2（日）●「大阪朝日新聞」、初の輪転式グラビア印刷の写真付録をつける。
3（月）●幣原喜重郎駐米大使、カリフォルニア州の排日土地法に抗議。
4（火）●横浜生糸市場、後場立ち会い休止。
5（水）●柳田国男、沖縄の民俗調査のため那覇到着。
6（木）●長野県埴科郡南条小学校が全焼。校長・中島仲重、御真影を持ち出そうと火中に入り焼死。
7（金）●東京の電話使用の一位は待合「金田中」、二位東京帝大病院、三位白木屋、と新聞に。
8（土）●ウラジオストクで日本軍哨兵、米ラングトン大尉を誤射（哨兵処罰で2月21日解決）。
9（日）●岩崎家、東京・深川の清澄庭園開放。
10（月）●帝国農会、米価維持へ結束を決議。
11（火）●皇居の四五ヵ所に火災報知器が設置される。
12（水）●北海道移住者への汽車賃が無料から半額制へ。
●東京の足立機械製作所争議で、工場閉鎖・全員解雇に組合員が激怒し、機械を破壊。
13（木）●文部省、職業学校規定制定。職業学校が初めて制度化される。
●イタリア社会党大会（左派が共産党結成）。
14（金）●ドイツからの賠償船（八隻）の第一号神戸着。
15（土）●三菱電機設立。三菱神戸造船所の電気機械部門が独立したもの。
16（日）●フランス、ブリアン内閣成立。
17（月）●大刀洗航空隊、九州一周飛行に成功。
18（火）●憲政会・箕浦勝人ら普選法案を衆議院に提出。
19（水）●東京市、養育院拡張を計画、と新聞に。
20（木）●トルコのアンカラ国民議会、基本法を採択。
21（金）●チャップリンの新作映画「キッド」米で公開。
22（土）●静岡県清水で初の漁業用無線通信開始。
23（日）●関西労働組合連合会、発会式。
24（月）●憲政会総裁・加藤高明、シベリア撤兵主張。
25（火）●伊藤忠商事、神戸・ロンドンなど五支店廃止。
26（水）●熊本医専、私立から県立に移管。
27（木）●大阪・岡田興行部の跡目を吉本興業部が引き継ぎ、これに反対の芸人がスト突入。
28（金）●米の国勢調査局がハワイの人口は二五万六〇〇〇人、うち日本人が一一万人と発表。
29（土）●大杉栄・高津正道ら週刊「労働運動」を再刊。
30（日）●全国の処女会の数、年末で八〇〇〇と新聞に。
31（月）●満鉄の汽船など不当買収の疑獄事件、阿片密売事件が衆議院で問題化。

ニュース・ファイル 1921

フォト＋日録で再現する365日

第一次大戦後の不況と大正デモクラシーの高揚の中、川崎造船などで大争議が頻発した。原敬首相がテロの凶刃に倒れるなど不穏な世相に対し、国民に明るい希望を抱かせたのは、二〇歳の若き皇太子、裕仁親王の欧州巡遊、そして病弱な天皇に代わる摂政就任だった。

◀神戸市で3万人デモ（7月10日）賀川豊彦らの指揮のもと争議中の川崎造船・三菱造船を中心に、神戸印刷工組合、大阪聯合会などが一団となって行進し、第2次世界大戦前最大のデモとなった。写真は川崎造船前で。

「写真通信」

▲借家人同盟が「悪家主征伐！」叫ぶ（2月）工業化による人口の都市集中のため賃貸住宅が急増、家賃をめぐるトラブルが続発した。写真は、家主横暴を訴える大阪のデモ。

「写真通信」

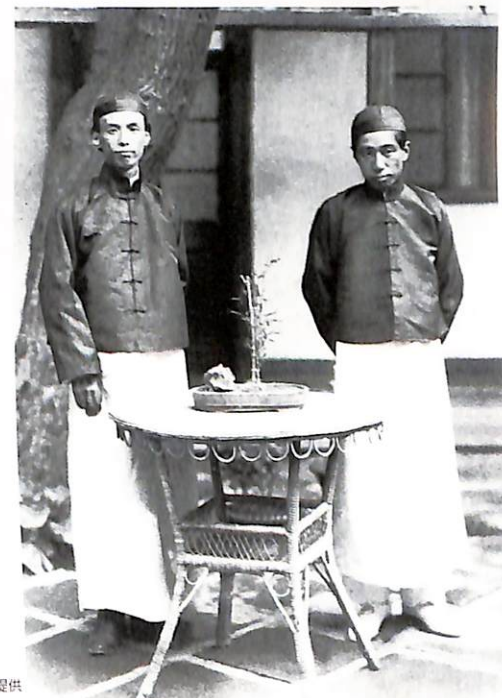
◀第1次大本教事件起こる（2月12日）大正維新による神政実現を呼びかけ、知識層・軍人にも信者を拡大していたが、教祖・出口王仁三郎らが不敬罪で収監。写真は、京都府の命令で取り壊しが始まった神殿。

「写真通信」

▶エルマン、来日演奏会（2月16日）ロシアの天才バイオリニスト（30）が、東京・帝国劇場で初演。超満員のクラシックファンを魅了した。作曲家・山田耕筰も「音色が素敵。全部が理想的」と絶賛。

「写真通信」

日本近代文学館提供

▲▶プロレタリア文学の先駆、「種蒔く人」創刊（2月15日）パリで反戦運動にかかわった小牧近江らが編集、秋田・土崎で発刊。写真上は創刊号。右は第2次同人。後列左から佐々木孝丸、小牧、堺利彦、平林初之輔ら。

日本近代文学館提供

「写真通信」

▲朝鮮人参政権獲得運動の閔元植、刺殺（2月16日）帝国議会に請願書を提出した翌日の朝、東京のホテルで襲われた。犯人は、参政が朝鮮独立を阻害すると考えた、日大留学中の朝鮮人。

▶中国の芥川龍之介（3月）大阪毎日新聞社特派員として上海、江南、北京などを視察。女性の強烈な情熱が主題の『南京の基督』ほかを着想。右は竹内逸三。

木挽社提供

大正10年2月

1（火）●「東京朝日新聞」、夕刊の発行復活。

2（水）●文部省推薦の官選映画、第一回分発表。「ヘレン・ケラー」「お化けトランク」など洋画二〇本。

3（木）●衆議院、国民党・憲政会提出の普選案否決。
●賀川豊彦ら、大阪で借家人大会開催。

4（金）●クロポトキン研究で新聞紙法違反の森戸辰男、出獄（新人会会員が出迎え）。
●憲政会、普選案に不満の尾崎行雄に離党勧告。
●前年の米実収は六三〇〇万石の豊作と新聞に。

5（土）●カント『純粋理性批判　上』（天野貞祐訳）刊。

6（日）●東京・増上寺で借の被選挙権獲得要求大会。

7（月）●大日本セルロイド、工員などの第二次整理。

8（火）●米国で東洋人との結婚禁止法可決。

9（水）●ハバナに領事館、開設。

10（木）●宮内省、「宮中某重大事件」に関し皇太子妃内定に変更なしと発表。

11（金）●東京高師茗渓会、大学への早期昇格を決議。

12（土）●新婦人協会、大阪で覚醒婦人大会開催。
●大本教、不敬罪・新聞紙法違反で幹部一斉検挙（第一次大本教事件）。

13（日）●一万二五〇〇町村の全国町村長会、創立。

14（月）●桜楓会中心に婦人平和同盟準備会開催。

15（火）●松方正義、葉山御用邸へ。皇室問題について三元老の意向を報告。
●小牧近江ら文芸雑誌「種蒔く人」創刊。

16（水）●中国、日本への官費留学生廃止と通告。
●ロシアのバイオリニスト、エルマン日本公演。

17（木）●京都府小学校長会、女教員の出産休暇可決。

18（金）●内閣弾劾国民大会、東京・赤坂山王台で開催。

19（土）●衆議院、原内閣不信任案否決。

20（日）●内務省調査で一月以来の失職者が一万人と。

21（月）●北海道蜂須賀農場の小作人一五〇人余、小作料減額を要求し事務所を襲撃。
●イランで陸軍大佐のレザー・ハーン、コサック隊率いて無血クーデターに成功。

22（火）●国際社会行動党同盟、ウィーンで創立大会。

23（水）●独の化学雑誌一世紀分を住友家購入と新聞に。

24（木）●五分利つき国債七〇〇〇万円発行規程、公布。

25（金）●東京・四谷花園町に職業紹介所増設と新聞に。

26（土）●衆議院、女子の政談集会参加を認めるなど治安警察法改正案、可決。

27（日）●伊共産党とファシストが衝突。内戦状態に。

28（月）●クロンシュタット軍港でロシア海軍水兵、戦時共産主義に反対し暴動。

ノーボスチ通信社

▲レーニン、新経済政策「ネップ」発表（3月8日）大戦で疲弊した農業の立て直しのため、第10回ロシア共産党大会で資本主義的経済政策の導入を提案し、採択された。

▼神戸開港50年（3月20日）大倉山公園で祝賀会が行われ、満艦飾の船が港を埋め、花車（写真）をはじめ祝賀の行列が市中を練り歩いた。神戸港は、明治・大正の開明を担った。

「写真通信」

証言・あの日この日

内村鑑三（60）

5月18日（水）〈終日床に就て休んだ、眩暈は去つた然しまだ病人である、昨秋の脳疾の軽き振返しである、当分講演を止めずばなるまい、其事を思ふと大なる悲痛である、我が生命はキリストの十字架の宣伝にある、縦令暫時なりと雖も此事を止むるは堪へ難き苦痛である、然し止むを得ない、四十年間此事を為すの快楽を与へられたのである、今止めても不平は言へない、聖意をして成らしめよである〉（内村鑑三『日記』）

過激なキリスト教徒として、近代の日本人に深い精神的な影響を与え続けて来た思想的巨人・内村鑑三の身にも、この頃、次第に老いと病の影が迫りつつあった。これまで、日曜講演をほとんど休まずに続けてきた内村だったが、さすがに病には勝てず、次第に休むことも多くなる。この日も一日中、床について休む。（山崎行太郎）

▼シベリア出征兵士に慰問の鶯餅（3月24日）極寒の地で長期駐屯する労苦を慰労するため、陸軍官房が東京・丸ノ内の和菓子屋・塩瀬に注文、発送させたもの。写真は塩瀬での荷造り作業。

「写真通信」

▲東京・新宿で大火（3月26日）午後8時近く、3丁目の俵商宅から出火、強風にあおられて火は急速に燃え広がった。4時間後やっと鎮火、3丁目一帯は灰燼に帰し、家屋の全半焼632戸に達した。原因は焚き火の不始末だった。

「写真通信」

▶救世軍マカロナン中将、来日（3月10日）明治28年に創設、英本部にならい伝道と貧民救済を行う日本救世軍の活動を視察するため。写真は東京駅で中将（左から二人目）を出迎える、日本初の救世軍士官・山室軍平大佐（右隣）。

「写真通信」

大正10年3月

1（火）●東京中央電話局、一四歳未満の女子電話交換手の夜勤廃止。

2（水）●下中弥三郎、野口援太郎ら、小学教育費節減に反対して教育擁護同盟を結成。

3（木）●皇太子、軍艦「香取」で横浜から欧州へ出発。

4（金）●東京・小塚原の刑場跡で解剖一五〇年祭。

5（土）●東京・靖国神社で米プロレスと柔道が初対決。

6（日）●南満州鉄道、塔連炭鉱不正買収事件で告訴。

7（月）●愛知一中で現校長から証書を受けたくないと卒業生一三五人全員欠席。

8（火）●第一〇回ロシア共産党大会開催（レーニンの新経済政策「ネップ」採択）。

9（水）●陸軍による日本―満州間の飛行が本決まり。

10（木）●大阪に丸紅商店（現・丸紅）設立。

11（金）●貴族院、風教粛正決議案を否決。

12（土）●東京・神田市場で問屋と小売店対立。問屋は市内で安売り、小売りはほかから仕入れ。

13（日）●三田―稲門野球試合（早慶戦）復活。

14（月）●足尾銅山で人員整理反対スト。

15（火）●銀座通りの改装工事開始。柳をイチョウに。

16（水）●大阪合同紡績、試験的に夜業停止。昼間一〇時間二交代制を採用。

17（木）●住友・別子銅山、一〇〇〇人の解雇発表。

18（金）●西田幾多郎の『善の研究』岩波書店から再刊。翌年三月までに五四版のベストセラーに。

19（土）●衆議院、郡制廃止案可決（26日貴族院も）。

20（日）●神戸開港五〇年祝賀会、大倉山公園で開催。

21（月）●山県有朋、元老・枢密院議長の辞表提出。

22（火）●東京市で、正午を知らせる午砲、通称、ドンが砲身故障で鳴らず。明治四年以来初めて。

23（水）●倉田百三『愛と認識との出発』刊。

24（木）●山岡発動機（現・ヤンマー）、農業用石油発動機を発売。

25（金）●三井物産造船部、九時間労働制実施。

26（土）●福島県磐城無線電信局原ノ町送信所完成。対米無線通信業務を千葉県船橋から移管。

27（日）●早大野球部アメリカ遠征（～7月29日）。

28（月）●岡山県倉敷小学校で大原孫三郎収集の仏名画展。マチス、マルケらの二六点展示。
●東京帝大、経済学博士号創設（4月京大も）。

29（火）●東京瓦斯疑獄事件で宮崎三之助代議士、収監。

30（水）●英チャーチル植民地相、第一次大戦後の中東の委任統治について、アブドゥッラーと合意。

31（木）●奈良県柏原で水平社創立

毎日新聞社

▲**米国のバー空中飛行団、軽業(4月1日)** 9歳と6歳の兄妹を含む9人と、カーチス小型機4機の陣容。東京・洲崎埋め立て地で宙返り、錐もみなどの技をやつぎ早にこなした。写真は空中飛び移りの妙技。

▼**楽壇の名花、原信子・片山やす子(4月14日)** 浅草オペラの人気プリマだった原が、米国で共産主義者の父・潜と暮らしながら舞踊修業を続けていた片山と意気投合。左が原信子。

「写真通信」

「写真通信」

◀**法隆寺で聖徳太子1300年遠忌法会(4月12日)** 推古天皇(在位592~628年)の時代をしのばせる壮麗な大行列が、東院から聖霊殿へ粛々と続いた。写真は行列の中心、聖徳太子の木像を安置した御輿。

▼**足尾銅山でストライキ(4月7日)** 団結権の承認、最低賃金1円80銭など8項目を要求する組合側に、会社側は337人の解雇で応じた。写真は鉱主・古河男爵夫人に訴えるため上京した家族代表。

「写真通信」

▼**赤瀾会結成(4月24日)** ロシア革命に刺激され、婦人解放を社会主義の実現に求めた(左から)山川菊栄、伊藤野枝、堺真柄ら42人が結集。短命だったが、先駆的役割を担った。

「大阪」

▼**尼港事件殉難者、合祀(5月27日)** 前年にシベリアの尼港(ニコラエフスク)でパルチザンと交戦、全滅した日本兵らの霊を東京・靖国神社が合祀。各連隊の兵士が続々参拝した。

「写真通信」

大正10年4月

1(金)●丹那トンネルの工事現場で崩壊事故。三三人埋没。一六人死亡。八日一七人救出。
●東京・洲崎で米・バー飛行団の曲乗り飛行。
2(土)●阿片事件で大連民政署長・中野有光、収監。
3(日)●詩人の北原白秋、佐藤菊子と再婚と新聞に。
4(月)●米穀の需給調節のため米穀法公布。
5(火)●米、日本のヤップ島委任統治不承認と通告。
6(水)●東京・浅草で大火、一二〇〇戸全焼。
7(木)●陸軍、仏・英・米・伊製野戦用救護自動車展。
8(金)●国有財産法、借地法・借家法公布。
●松竹キネマ研究所、第一回作品「路上の霊魂」(弁士・徳川夢声)公開。
9(土)●航空法、公布。
10(日)●大阪電気鉄道(現・近鉄)、西大寺—郡山間開業。
11(月)●黄燐マッチの製造が禁止される。
12(火)●度量衡法改正。三年後メートル法を採用。
13(水)●政府、興銀・勧銀の帝国蚕糸への貸し付けに対し、三〇〇〇万円までの損失補償を契約。
14(木)●函館市で大火。二一四〇戸焼失。
15(金)●羽仁もと子、東京・雑司ケ谷に自由学園創設。
16(土)●大蔵省、前年春以来中断の銀行検査を五月再開、と新聞に。
17(日)●国士舘、学生の自治重視と新聞に。
18(月)●足尾銅山争議、解決。
19(火)●シベリア派遣慰問事業に一万円下賜。
20(水)●逓信事業実施五〇年祝賀会、開催。
21(木)●東京の物価は大正元年の約三倍、と新聞に。
22(金)●箱根・強羅の大遊園地計画が新聞に。
23(土)●北大に医学部、九大に農学部の増設、公布。
24(日)●西村伊作、与謝野寛・晶子夫妻、石井柏亭の協力で文化学院を開校。
●わが国最初の社会主義婦人団体、赤瀾会結成。
25(月)●敦賀に帰港した「新高丸」の乗客二二〇人余、ペスト検疫のため五日間隔離。
26(火)●陸・海軍の軍法会議法公布。
27(水)●連合国賠償委員会、独の賠償額を一三二〇億マルクと決定(5月11日、独受諾)。
28(木)●世界チェス選手権で二七年間王座のラスカー(独)がカパブランカ(キューバ)に敗北。
●大阪電灯会社争議。以後大阪で争議続発。
29(金)●栗島すみ子主演「虞美人草」(松竹)公開。
30(土)●改正特許法、同実用新案法公布(先願主義の採用、特許と実用新案の区分の明確化など)。

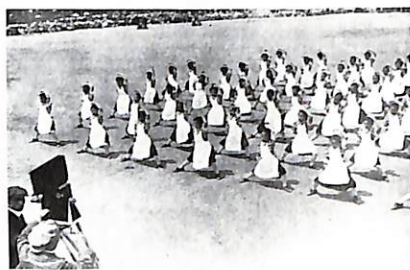
▼**柳田国男、国連常任統治委員で渡欧(5月8日)** 本部のあるスイスのジュネーブに向かうため、「春洋丸」で横浜を出港。米国を経て欧州入り。欧州各地を旅行、ライフワークの民俗学の目を肥やした。

木挽社提供

▶**大阪で日本初の女子だけの運動会(5月15日)** 大阪女子体育研究会が主催、天王寺グラウンドに市内の幼稚園や高女、各種女子団体が集まり、運動競技大会を開いた。

「写真通信」

▲**孫文、非常大総統に就任(5月5日)** 前年10月の、北洋軍閥・北京政府による南北統一宣言を拒否、再び広東に戻り、「三民主義」を掲げる第2次広東政府を樹立、そのトップの座についたもの。就任式の記念写真。

▶**常ノ花、初優勝(5月23日)** 5月場所、東大関で10戦全勝。多彩な取り口が冴えた。24歳。大正13年横綱免許、昭和5年の引退までに10回優勝。写真は優勝を喜ぶ出羽一門。右から栃木山、常ノ花、源氏山、大錦。

「写真通信」

中村屋提供

▲**盲目の詩人エロシェンコ、国外退去(5月29日)** 東京・新宿中村屋を芸術サロンにした創業者・相馬愛蔵の夫人、黒光を慕い、身を寄せていたが、ロシア人だったためボルシェビキの疑いをかけられた。31歳。

「写真通信」

◀**日本水泳陣、上海の極東五輪大会出場(5月)** 大会には16人が出場したが、1位は2種目だけで、フィリピン選手が圧勝。泳法・設備面での反省が生まれた。写真は4月、神戸港を出発、長崎寄港の折の練習風景。

大正10年5月

1(日)●第二回メーデー(堺真柄・仲宗根貞代ら検束)。
●北海道苫小牧町で火事、約一三〇〇戸焼失。
2(月)●独帰属に反対し、上シュロンスク地方でポーランド義勇軍蜂起。
●岡本一平、最初の物語マンガ「人の一生」を「東京朝日新聞」に連載開始。
3(火)●米シカゴでの印刷エスト、五〇〇〇人に。
4(水)●パリでナポレオン一世の一〇〇年忌祭、挙行。
5(木)●孫文、非常大総統に就任(広東新政府成立)。
6(金)●大阪で初の女子医専の認可申請。
7(土)●日本海員組合、四九団体で発会式。
8(日)●会社づとめの女性により相互援助・地位向上などめざし婦人事務員協会結成。
9(月)●皇太子、ロンドン到着、以後欧州を巡遊。
10(火)●独フェーレンバッハ内閣、賠償不能と総辞職。
●大阪市庁舎、中之島に新築移転。
11(水)●大阪瓦斯、第一号コークス炉の操業開始。
12(木)●ナイチンゲール生誕一〇〇年を記念し「病院の日」制定。
13(金)●独の前衛映画「カリガリ博士」日本初公開。
14(土)●横浜船渠、工員二五〇〇人を解雇。
15(日)●東京で教育の機会均等を求め苦学生デー開催。
16(月)●原敬首相、対中国・シベリア政策に関する東方会議開催(~25日)。
17(火)●閣議、張作霖に対する態度を決定(東三省の内政・軍備充実は援助、中央進出は援助せず)。
18(水)●裁判所、検事局に通訳官を認可。
19(木)●ハーディング米大統領、移民制限法に署名。
20(金)●沖縄県那覇、市制施行。
21(土)●英国海軍飛行教官、英機操縦指導のため来日。
22(日)●上海の呉淞で日米両国の水兵が衝突。
23(月)●ウラジオストクで政変、臨時政府組織。
24(火)●蚕糸業改良同盟、設立。
25(水)●東京に女教員・女学生専用の桜楓会アパート開所。
26(木)●内務省、私娼の実態調査を指示と新聞に。
27(金)●東京市、疑獄防止で砂利採取の市営化計画と新聞に。
28(土)●日本社会主義同盟に解散命令。
●託児所の運営につき東京市託児保育規定を市長決議。
29(日)●盲目のロシア詩人・エロシェンコに退去命令。
30(月)●逓信省、浜地常康に初の私設無線電話認可。
31(火)●ベルギー駐在日本公使館、大使館に昇格。

◀巌谷小波、お伽30年記念祭（6月4日）20歳の時『こがね丸』を書いたことに始まり、数々の名作児童文学を執筆。その労をたたえようと帝国劇場でお伽劇が行われた。写真後列左が小波。

▼東京市が初の託児所開く（6月18日）子どもを持つ婦人労働者が安心して働けるようにと、本所区入江町（現・墨田区緑4丁目）に設置。建物は300坪。生後6ヵ月から6歳までが対象。

「写真通信」

▼慶応幼稚舎で初の映画による授業公開（6月）教育ではよい評判のない活動写真を、逆に授業で上手に使おうという新しい試み。写真は講堂で行われた理科の授業。

「写真通信」

▶横綱大錦、絶好調（6月）5月場所は同門の常ノ花に優勝をさらわれたが、その前の3場所は優勝。「頭でとる」頭脳的土俵は冴えわたっていた。29歳。写真は実父を同伴し、ハワイ巡業へ向かう船上で。

毎日新聞社

▼古賀廉造前拓殖局長官、阿片密売容疑で起訴（6月11日）中国の関東州（現・旅大）を支配する役人の立場を利用、密売しては差益を着服、政治献金していた。

▲靖国神社に大鳥居（6月8日）建設委員長の長谷川元帥、加藤海相が見守る中、境内で盛大に竣工式。高さ約21メートル。別格官幣社50年の歴史を記念、広く基金を募った。

毎日新聞社

「写真通信」

大正10年6月

1（水）●文部省、初の図書館員教習所を開設。

2（木）●李王家、伊藤博文の大磯の別荘「滄浪閣」を一二万円で買い上げ、と新聞に。

3（金）●米、日本のシベリア占領に基づくいかなる要求、権限も承認しないと日本に通告。

4（土）●中国・宜昌で日本人への掠奪・傷害事件。

5（日）●野口雨情の童謡集『十五夜お月さん』刊行。●川井田中尉、各務原で連続四五六回宙返り。

6（月）●京都フィルハーモニー交響楽団、第一回公演。●東京・小石川に中央労働学院開校。

7（火）●日本産銅組合解散、水曜会（カルテル）設立。

8（水）●七十余の団体で京都市婦人連合会設立。

9（木）●陸相・田中義一、尼港事件の責任を負い辞職。

10（金）●米穀法による政府買い上げ一〇〇万石を開始。

11（土）●阿片密売事件で前拓殖局長官・古賀廉造起訴。

12（日）●日清戦争講和条約調印式の行われた山口県下関の「春帆楼」閉鎖、と新聞に。

13（月）●名古屋鉄道（社長・富田重助）設立。

14（火）●陸軍が豊後水道に最重要要塞建設と新聞に。

15（水）●東京市、公道の無断使用取締り方針と新聞に。

16（木）●大阪・住友製鋼所、人員整理に反対し工員一六五二人争議。

17（金）●九州で大洪水（大分県の死者二〇〇人）。

18（土）●河野広中、島田三郎ら綱紀粛正有志大会開催。

19（日）●住友電線と住友製鋼所の争議団が合同する。

20（月）●警視庁、捜査、鑑識、庶務の三課からなる刑事部を設置、捜査係員一〇〇人増員。●横浜の内田造船所、工員一二三〇人全員解雇。

21（火）●英帝国会議、「英連邦」結成に合意。

22（水）●山内保博士、無痕跡の種痘法発見と新聞に。●エール大、野口英世医学博士に理学博士授与。●モスクワで第三回コミンテルン世界大会開催（「大衆の中へ」のスローガン）。

23（木）●パリで初の日本美術展が本決まりと新聞に。

24（金）●文部省所管の東京教育博物館、東京博物館として独立。

25（土）●臨時国語調査会（会長・森鷗外）設置。

26（日）●東京で若い男女の談話会・清親社交会結成。

27（月）●大阪の商業使用人組合、週休を要求。

28（火）●大審院、村八分によって自由・名誉を害されたものに、精神上の損害賠償請求を認める判決。

29（水）●職業紹介法施行規則、公布。

30（木）●ジュネーブで国際連盟、婦人児童売買禁止会議開催。

「現場」を歩く 熱海

丹那トンネル工事をはばんだ"水"の功罪

山本徹美

▲丹那トンネルの熱海側入り口の真上に立つ、工事犠牲者をまつる丹那隧道工事殉職碑。碑面には、67人の殉職者名がレリーフで刻まれている。 奥村健太郎

大正一〇年四月一日午後四時一〇分頃、鉄道省が静岡県熱海で工事を進めていた丹那トンネルで大崩壊事故が発生。

事故現場は熱海口から坑内へ約三一七㍍入った地点。大音響とともに突然、落盤、約四〇㍍にわたってトンネルを分断、直下にいた一六人を押しつぶす。そこよりも奥で工事をしていた一七人は坑内に閉じこめられた。救助活動は難航し、八日午後九時三〇分、ようやく救助坑が抜け、一七人全員が救出された。その中の一人、飯田清太技手（当時・二三歳）は、「空腹ニ堪ヘズ遂ニ一筋ノ藁（草鞋）ヲ頼リニ噛リダス」などと、悲惨な状況を日記につづっており、それが新聞などで報じられ反響を呼んだ。

当時、臨時雇用で工事関係者のタイムカード管理係をしていた宮崎長太郎氏（八九）が回想する。

「工事箇所は活断層が走り、地質が悪かった。が、何より悩まされたのは水です」

工事の進行をはばんだのは大量の走り水で、しかも圧力がかかっているため、トンネルの壁を突き破り、人をはじき飛ばすなど危険きわまりない。大正一三年二月には三島口側で出水、犠牲者一六人は山岳トンネルでは異例の溺死だった。

大正七年四月一日に着工、昭和九年一二月一日、総延長七八〇三・八六㍍が開通するまでに出た湧水量は芦ノ湖の三倍分に相当するとも言われ、工費約二六〇〇万円、工事関係者延べ二五〇万人を投入、殉職者は六七人と報告されている。

水に泣き、水に笑う

丹那トンネルを訪ねてみた。熱海口の丘陵中腹には殉職碑が建立されていた。毎年四月、市と有志によって慰霊を兼ねた「感謝祭」が開催されているという。難工事の原因"水"はどうなったか。

「湧水は水抜坑から排出されており、事故や災害の発生するおそれはありません。むしろ、熱海市の飲料水に利用されています」（JR東日本熱海駅・中山繁副駅長）

同市水道課に問い合わせてみた。

「昭和二二年以降、温泉宿の集中している熱海市中心街全域には丹那隧道湧水を配給していて、使用量は一日平均一万八〇〇〇立方㍍。最大で三万七五〇〇立方㍍の供給能力があり、トンネルのおかげで渇水から救われています」

一方、トンネルの地表部分に位置する丹那盆地（田方郡函南町）では水源が枯渇した。斎藤長徳元町長（八六）は、

「工事前、川には水があふれて水車がまわり、ウナギやフナ、ホタルもいた。それがすべて消えた。鉄道省から補償金が出て、トンネルの湧水を函南にも引いたけど、失われたものは大きい。環境破壊のはしりでしょうね」

と、複雑な表情である。函南町では年間平均約一七〇万立方㍍を丹那隧道湧水でまかない、その水利権を持つ八ツ溝用水組合に約五〇〇万円支払っている。まさに"水物"と、トンネルの功罪も相なかばする。私には思えるのだった。

▲大正末、三島口の工事の様子。計画に比べ、期限にして2倍以上、予算3倍以上を要した難工事だった。

交通博物館提供

ベストセラー
童話ブームの頂点を飾った小川未明『赤い蠟燭と人魚』

◀『赤い蠟燭と人魚』（天佑社、1円60銭）
日本近代文学館提供（4点とも）

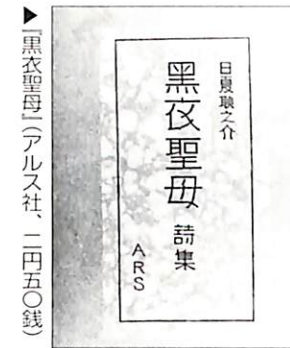
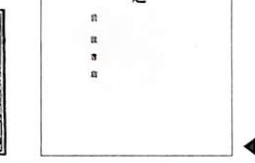
大正七年の「赤い鳥」創刊に始まる童話・童謡ブームがピークにさしかかったこの年、小川未明の代表的作品集『赤い蠟燭と人魚』が刊行された。巻頭を飾った同名作品は、人魚の母親が、北の海で暮らす自分の寂しい境遇を娘には味わわせまいと、まだ赤ん坊の娘を人間の町においてくるところから始まり、そのような母人魚の信頼を裏切った人間の町が滅びるところで終わる。ちょっと怖いところもあるファンタジーだった。

ところで小川未明自身は、この作品集の序文で、教育のために童話を用いようとする傾向に対して強い反発を示し、「童話の作者はほんとうの詩人でなければならぬ。……人生の塵にまみれて来た境遇から飛躍して、再びもとの純一な、輝かしい自然の世界に入り得ることは、独り詩人の特権だからである」と書いた。

そのような時代に、童話の形ではないが、少年期の情景や心象風景を美しく描いて注目されたのが、中勘助の『銀の匙』である。夏目漱石の推奨で新聞連載された後、岩波書店から刊行されたもので、著者名は"那珂"と記されていた。この本の冒頭で中勘助は、なんと二段組で一三ページにわたる正誤表をつけた。これは誤植を示すためもあったが、新聞連載時の表記を改めたかったからである。新聞連載時は、漱石の意向を反映して漢字が多くなったが、単行本にするにあたってやはり「自分の流儀にしたく」なったためだと告白している。まことに率直な気持ちで作られた本だったのである。

詩歌の方では、民衆詩など社会派が台頭してくる中、詩をあくまでも高踏的な芸術だと主張してきた日夏耿之介の代表的な詩集『黒衣聖母』が刊行された。その長い散文詩風の序文の中で日夏は「私の詩には、人間心性の赫燿たる遍照も、眼ざましい飛躍もない。ある ものは、ただ荒涼たる曠野に低迷する暗雲のやうな力無き蠢動である」と、その孤立性を、臆するところなく堂々と描き出した。

▶『黒衣聖母』（アルス社、二円五〇銭）

▶『黒衣聖母』の扉にはヨーロッパの版画が刷られており、いかにも大正ロマンの香りを感じさせた。

◀『銀の匙』（岩波書店、1円20銭）

スターと名場面
「豪傑児雷也」の忍術場面で"目玉の松ちゃん"超人気！

マツダ映画社提供（3点とも）

大正年間の人気スター、尾上松之助主演の映画「豪傑児雷也」（牧野省三監督）が公開された。忍術使いを主役にした映画で、画面からパッと消えたり、突然大ガマに変身したり、その映画的トリックは特に子どもたちを喜ばせ、"目玉の松ちゃん"こと尾上松之助の人気をいやがうえにも高めることになった。

洋画では、怪奇ものの古典的名作「カリガリ博士」（ロベルト・ビーネ監督）が公開された。ある町の祭りにやって来たカリガリ博士は、夢遊病者を演しものとする香具師として登場する。やがて起きる連続殺人事件……はたして博士がおかした犯罪なのか。不思議な話が、明暗を強調した画面で進んでいく。

一方、ダグラス・フェアバンクスの製作・主演映画「三銃士」（フレッド・ニブロ監督）は、長編の冒険活劇映画として、ファンをわくわくさせた。一七世紀の、欲望と嫉妬が渦巻くフランス宮廷を舞台に繰り広げられる、権謀術策の世界と、それを打ち破ろうとする正義派の戦い。にぎやかで楽しい映画だった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「路上の霊魂」（小山内薫）「寒椿」（井上正夫）「蛇性の婬」（岡田時彦）「奇傑ゾロ」（ダグラス・フェアバンクス）

▲「豪傑児雷也」で忍術も使い大活躍の"目玉の松ちゃん"こと尾上松之助（右）。

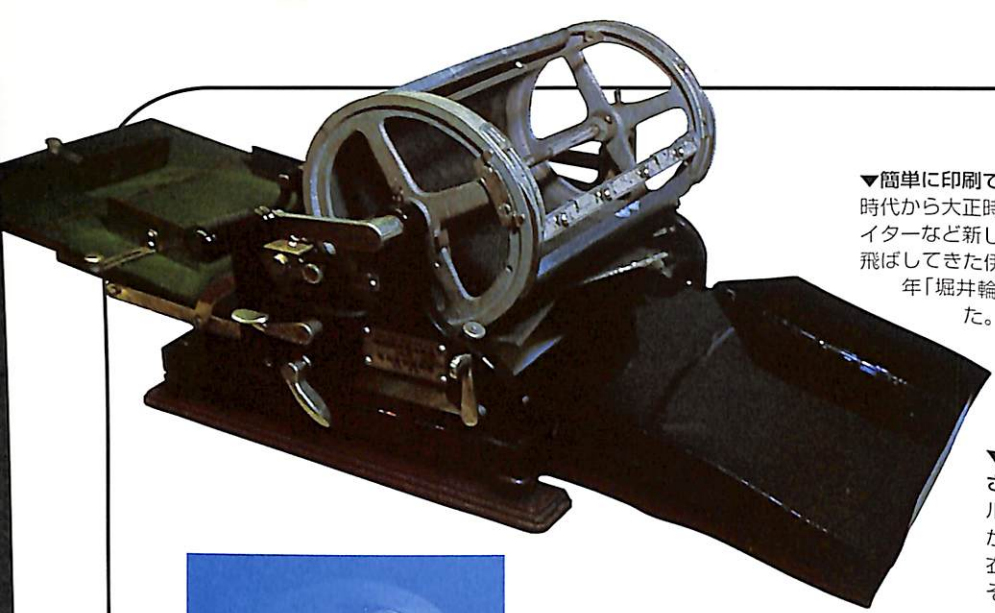
▼怪奇映画の傑作「カリガリ博士」で、カリガリ博士を演じたコンラート・ファイト（右）。

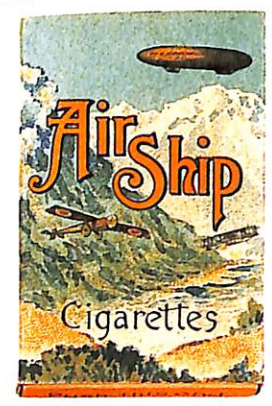
▶「三銃士」で主役のダルタニアンを演じた、当時のアクションスター、ダグラス・フェアバンクス（右）と、相手役のマーガレット・ド・ラ・モット（左）。

モノ語り'21
"もっと光を"と大発明！「ふたまたソケット」「二重コイル電球」

▼簡単に印刷できる画期的なオフィス機器　明治時代から大正時代にかけて、ホチキスやタイプライターなど新しいオフィス機器を扱ってヒットを飛ばしてきた伊藤喜商店（現・イトーキ）が、この年「堀井輪転謄写機（とうしゃき）」を発売した。当時としては画期的な簡易印刷機で、オフィスの文書作成・複写機能を一段と高めるものだった。

▼炭火アイロンと電気アイロンのはざま　かつてアイロンは、そのエネルギー源として炭火を用いていたが、熱が不安定なのに加えて、灰が衣服に落ちるなどの欠陥があった。それを克服しようとして開発されたのが、東京瓦斯（現・東京ガス）の「瓦斯アイロン」で、この年にはガスバーナー内蔵型のものが発売されたが、まもなく電気アイロンにとって代わられることになる。
ガス資料館蔵

▲安定した光を得るための技術革新
この頃、電球の性能をよくする工夫がさかんに試みられていたが、東京電気（現・東芝、東芝ライテック）はコイル状にしたフィラメントを、さらに二重にした「二重コイル電球」の開発に成功した。これによって、より明るい光源を得ることができたが、家庭用に採用するには、大量生産技術がまだともなわなかったので、当初は映画などの映写用電球として用いられた。

▼ふたまたソケットの第1号
大正7年に創業したばかりの松下電気器具製作所（現・松下電器産業）は、使い勝手がよく、品質のよい配線器具の潜在的需要を掘り起こそうと、その開発に取り組んでいたが、この頃「2灯用差込プラグ」を完成し発売した。ひとつの電源から、必要な時には電球2個分の明るさが得られるこの器具は、電気を身近なものに感じさせる大ヒット商品となった。

▶洒落たデザインがセールスポイント　大正時代なかばから、さかんにオリジナル香水を作って女性の心をとらえていた資生堂が、この年、洒落たボトルに入ったオリジナル香水「菊」を発売した。それまでに、"梅""藤""水仙"など、日本調の香水で形成してきた市場に、新たに投入された香水で、優雅で上品な香りを特徴としていた。レーベルは、ガラスボトルに金の直焼きつけだった。

▲新しい時代の雰囲気を持つタバコ　この年5月に専売局（現・日本たばこ産業）から、両切り10本入りの「エアーシップ」が1箱10銭で発売された。この銘柄は、日本での飛行機初飛行を記念して明治43年に50本入りの缶で発売されており、今回はその普及版として、デザインも踏襲して売り出したもの。
たばこと塩の博物館蔵

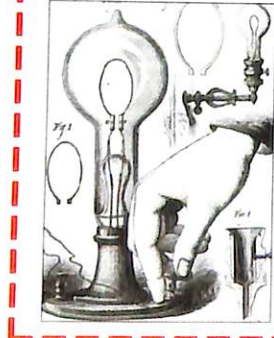
電球が発達した時代

二重コイル電球は、光源としての性能をアップさせた、大きな意義を持つ発明で、世界の電球6大発明のひとつと言われている。

その6大発明は、まず、エジソンの炭素電球から始まる。これは電球生産の工業化を可能にした。次がタングステンフィラメントの発明で、電球の寿命が延びた。そして熱によるタングステンの蒸発を防ぐガス入り電球の発明で、さらに電球の寿命が延びた。

ほかに内面つや消し電球とハロゲン電球の発明があげられているが、これによって明るく安定した光が得られるようになったのである。

◀19世紀の、初期のエジソン電球。ガス灯のように壁に取りつけた。

人物クローズアップ

野口雨情（三九）

“純真さ”と“郷愁”の童謡詩人
「赤い靴」「青い目の人形」発表

▲大正11～12年頃の野口雨情。長女・香穂子と自宅にて。続々と発表される新作に加え、大正12年に映画主題歌となり大ヒットした「船頭小唄」によって、雨情は民謡童謡界の第一人者と目されるようになった。 平凡社提供

「赤い靴　はいてた　女の子　異人さんに　つれられて　行っちゃった」
「青い目をした　お人形は　アメリカ生れの　セルロイド……」

この二つの童謡は、野口雨情（三九）が大正一〇年一二月に、「小女学生」と「金の船」（大正一一年「金の星」に改題）の二つの雑誌に、それぞれ発表した作品である。

雨情が、童謡詩人として本格的にスタートを切ることになったのは、大正八年の「金の船」創刊がきっかけだった。創刊号となった一一月号に続き、一二月号にも作品を発表。翌年一月号からは、童謡選者として編集にも加わった。

雨情の作品は、以降、欠かさず「金の船」に発表されたが、一〇年に入ると、活躍はさらにめざましいものになった。一月に「小説倶楽部」に詩作を発表したのを皮切りに、毎月たてつづけに多くの雑誌に詩や民謡・童謡を掲載、雨情の中に堆積していたものが、堰を切ったように流れ出したのである。

雨情がこの年に発表した民謡・童謡の中で、後世変わることなく親しまれ、歌い続けられているのが、「船頭小唄」「七つの子」「赤い靴」「青い目の人形」であろう。以後、雨情は「しゃぼん玉」「あの町この町」「兎のダンス」「波浮の港」「証城寺の狸囃子」「雨降りお月」などの名作を続々と発表していく。

野口雨情は、明治一五年五月二九日、茨城県多賀郡北中郷村大字磯原（現・北茨城市）生まれ。本名は英吉。野口家は、この地方きっての名家であり、大地主だった。雨情こと英吉は、その長男として何不自由なく、雨情によると「随分自由に我儘に育てられました」（「婦人倶楽部」昭和二年五月号）という。

明治三四年、東京専門学校（現・早稲田大学）高等予科文科入学。翌三五年、同科中退。在学中は坪内逍遥の薫陶を受け、童話作家・小川未明、画家・小川芋銭などを知った。

本格的に詩作を行うようになったのは、この頃からだった。三八年三月、雨情は処女詩集『枯草』を自費出版する。この詩集に見られる雨情の意図は、文語調新体詩を越えて、口語調詩を創作しようとする試みと言っていい。この試みは、雨情の以降の詩作、とりわけ民謡と童謡への考え方を示すものとなった。

◀大正一〇年に刊行された雨情の第一童謡集『十五夜お月さん』。 日本近代文学館提供

父の死によって野口家を継承した雨情は、その一方で詩への傾斜を強めていった。北海道、樺太への渡航経験などの中で、民謡と童謡の本質に対する考えが確立していく。それは、日本人としての心を大切にしながら、平易な言葉で庶民の生活感覚を表現することだった。

文芸評論家の粟津則雄氏は、こう語る。

「雨情は、民謡はおとながこれを歌う時、精神を浄化されるものであり、童謡は、これを歌い遊んでいるうちに、子ども本来の純真さに返るものでなければならないと考えていました。それが人々に広く受け入れられたのだと思います」

北原白秋、西條八十、野口雨情を童謡の三巨星と言う。白秋と八十は西欧的だが、雨情には田園と故郷の香りが漂う。

野口雨情は、昭和二〇年一月二七日、宇都宮市の自宅で死去。六二歳だった。

▲野口雨情と西條八十。早大の後輩にあたる八十らの縁で、雨情は雑誌に童謡を書き始めた。

決定的瞬間

革命ロシアの"疲弊"と"怒り"氷のネヴァ川を鮮血で染めたクロンシュタット水兵の叛乱

クロンシュタットはネヴァ川河口に浮かぶ海軍基地(元バルチック艦隊の母港)で、帝政ロシアの首都・ペトログラードを守る要塞でもあった。写真の背景に見えるネヴァ川は凍てつき、陸地と氷でつながっている。この氷の原野が血で染まり、死体で埋まったのは、ロシア革命から四年後の一九二一年三月一七日の朝であった。

この年撮影された、港に係留されている戦艦「ペトロパブロフスク」号の若い兵士たちは怒っていた。基地での日々の暮らしは死よりも悲惨で、「知らない人たちが見たらここは帝政時代の強制労働収容所だと思うだろう」と訴えた。同じように、革命発祥の地、ペトログラードではストが頻発し、人口は二五〇万人から七五万人へと激減。街には食料がなく、工場には資材がなく、労働者は飢えて農村部に流れ出していた。にもかかわらず、ボルシェビキの役人と人民委員たちはストを容赦なく弾圧し、自身は特権を享受しているではないか……。

四年前の革命時にはペトログラードの冬宮を攻撃し、以降の絶望的な内戦にも、革命政府を守るために水兵たちは戦った。しかし、彼らが命をかけて守った革命政府のもとで、今や労働者も兵士も農民も、物不足と飢えに追いつめられていた。

二月二八日、クロンシュタットの兵士たちは集会を開き、「社会主義諸政党の合法化、商業の自由」など一五項目の要求を掲げた。この要求は反革命をめざすものではなく、革命初期の穏当なデモクラシーを要求したものであったが、政府は強い衝撃を受けた。

三月一日、クロンシュタットで大規模集会が開催され、二日には水兵たちが要塞やドックを占拠する。クロンシュタットの要塞には一三五門の大砲と六八丁の機関銃、それに一二インチ砲を装備した二隻の戦艦、三隻の重巡洋艦、小型砲艦が一五隻配備されていた。

三月五日、赤軍の総司令官・トロツキー(四一)は、水兵たちに二四時間以内に降伏しなければ、「山ウズラのように撃ち殺す」と警告を発したが、聞き入れられなかった。もし、ネヴァ川の氷が解けて、基地が海の中に浮かぶようになれば、容易には攻め落とせない要塞と化すため、赤軍には時間的な余裕がなかった。このため、前線を指揮する司令官・トハチェフスキー(二七)は、タタール人、ラトビア人など、白系ロシア人に何の感傷も持たない兵士を五万人集めて三月七日と一七日に攻撃することにした。

三月一七日早朝からの攻撃は熾烈をきわめ、攻守双方の砲弾が氷を突き破り、氷上にはおびただしい赤軍兵士の死体が散乱した。クロンシュタットが陥落したのは、一八日の未明である。政府側は約一万人の死傷者を出し、叛乱軍は六〇〇人が死亡、一〇〇〇人が負傷、二五〇〇人が逮捕、八〇〇〇人がフィンランドに亡命した。

レーニン(五〇)はこの事態の深刻さに押されるように、三月八日から開催されていた第一〇回共産党大会で、ネップ(新経済政策)を発表し、農民の土地所有と余剰農作物の販売を認めた。

▲軍楽隊の演奏の中、戦艦「ペトロパブロフスク」の兵士たちの敬礼にこたえる司令官。2月28日、クロンシュタットの水兵たちが、15項目の「反乱の綱領」を決議したのも、この艦上であった。 A M セディアキン ロシア州立映画写真資料館

美の出会い

“趣味としての写真”に貢献 初のアマチュア向け雑誌「カメラ」「写真芸術」創刊！

大正一〇年四月、詩人・北原白秋の弟である北原鉄雄（三三）が経営する合資会社アルスから月刊写真雑誌「カメラ」が創刊された。写真雑誌としては、すでに浅沼商会から「写真新報」、小西六から「写真月報」、桑田商会から「写真界」などが出されていたが、これらはいずれも写真機材業者の販売促進を兼ねたもので、写真技師向けの内容だった。ところがこの新雑誌「カメラ」は、純粋にアマチュアに向けた初のカメラ雑誌で、彼らを指導・啓蒙することを目的としていたのである。

▶「カメラ」創刊号表紙。写真批評は、版画家の山本鼎が担当している。この雑誌は、第二次大戦中の中断をはさんで昭和三一年まで刊行され、多くのアマチュアの育成・指導に貢献した。 東京都写真美術館提供

▶「写真芸術」創刊号表紙。定価六〇銭。海外写真家の作品も掲載し、写真界に新風を送った。 日本カメラ博物館提供

日本に写真技術が伝わったのは、一九世紀中頃のことである。その後、明治時代に入ると、写真は文明開化とともに普及していったが、カメラはまだまだ高価なもので、購入できるのは華族や資産家などの上流階級か、営業写真師にすぎなかった。

しかし、大正時代に入って第一次世界大戦による好景気が訪れると、サラリーマンや公務員ら中産階級の間にも、趣味としての写真が急速に広まっていく。折しもヴェスト・ポケット・コダックに代表される安価な小型カメラが量産され、写真の普及に拍車をかけていった。

新写真雑誌「カメラ」は、一〇〇刷をこえるロングセラーとなった『写真のうつし方』（和蘭陀書房、後アルス社、大正五年刊）の著者で水彩画家として名高い三宅克己（四七）を顧問とし、高桑勝雄を主筆としてスタート。高桑は「カメラ」第一号の巻頭に、創刊にのぞむ抱負を次のように記している。

「本誌の立場を忘れてまで読者の御機嫌取りをせず、また徒に材料商の走狗となって提灯を持たず、掲載の論説記事は絶対に不偏不党、目安は好事写真家にある」

◀「塔影」。福原信三撮影、大正一一年頃。福原は、大正一二年に日本写真会を結成、会長となる。 日本写真会提供

判型はA5判、五三ページ、定価は五〇銭だった。内容は風景写真がほとんどで、撮影・現像・焼き付けなどの写真技術をわかりやすく解説する一方、読者から懸賞つきで写真を募集して、誌上で発表し批評を行うものだった。これが受けて、同年の一二月号では、応募数が五六〇〇点に達した。

東京都写真美術館の学芸課専門調査員・金子隆一氏は、雑誌「カメラ」を「写真愛好家の層が、業者によって系列化されていたアマチュアから、系列化されない大衆へと移行していく時代のシンボル的雑誌」だと位置づける。

写真の大衆化が進む中、パリに住んで写真を撮っていた福原信三は、たんに絵画を模倣するような“芸術写真”とは違う、写真独自の魅力を追求していた。帰国後、資生堂の経営にたずさわるかたわら、若い芸術家たちを支援していたが、三七歳のこの年、友人の掛札功や大田黒元雄、弟の福原路草らと写真芸術社を結成。「カメラ」創刊の二カ月後の六月、月刊写真雑誌「写真芸術」を創刊した。

同誌に掲載された福原の写真論「光と其諧調」は、その後のアマチュアカメラマンたちに大きな影響を与えることになった。次いで七月には銀座・資生堂で同人展を開催。ここで発表された福原の「巴里とセイヌ」は、翌大正一一年、写真集としてまとめられ、大正期の写真の傑作として今に伝わっている。

福原の新しい理論や手法は、今日から見れば、従来の絵画芸術の影響から完全に抜け出たものではなかったが、次の一九三〇年代、野島康三や中山岩太、安井仲治、木村伊兵衛らの活動により、写真の独自性が確立する時代を準備した功績は大きい。

この頃の写真界はアマチュアの層が一気にふくらみ、全国に五〇〇におよぶ写真クラブが組織された。「カメラ」や「写真芸術」は、彼らアマチュアから歓迎され、大正一二年には「白陽」「アマチュアー」「写真文化」など、写真雑誌の創刊も相次いだ。こうして、大正デモクラシーの世相の中で、写真のジャンルも急速に多様化していくのである。

▲「ニューヨークの町」。中山岩太撮影、大正9〜14年。中山は大正7年に渡米、ニューヨークのビルの9階にスタジオを開設した。 中山聖／兵庫県立美術館蔵

新横浜ラーメン博物館

麺やメンマの蘊蓄から専門店第一号の雰囲気まで味わえるラーメン・ランド

神奈川・横浜市

桑原茂夫

新横浜ラーメン博物館は、全国から有名ラーメン店が出店して、いろいろな味のラーメンを楽しませてくれることで、知られている。若い人向けのメディアが、グルメガイド風に店の方を強調したりするものだから、中にはラーメン代のほかに入館料を取るのはケシカランと息巻く向きもあるほどだそうだ。

この博物館には、大きく分けて三つの要素がある。ひとつは今記した、全国のラーメン店が一堂に会したグルメ向きの要素。二つ目は、ラーメンの歴史をたどる博物館としての要素。そしてもうひとつは、昭和三三年の東京の町を再現した〝テーマパーク〟的な要素である。ここでは第二、第三の要素に焦点をあてる。

入り口を入るとすぐ、ラーメンの麺やメンマについての蘊蓄が繰り広げられており、さすがラーメン専門の博物館なのだが、同じフロアに、わが国初めてのラーメン店「来々軒」が再現されていて、さすがの感はますます強くなる。

来々軒は明治四三年、浅草六区にオープンしたラーメン店で、その後、大正一一年に北海道は北大前の「竹家食堂」でラーメンが登場し、大正一四年に喜多方と久留米でラーメン店ができた。ラーメンは大正生まれの味なのである。さて来々軒のメニューを見ると、シナソバ（ラーメン）が六銭で、ほかにはシウマイ、ワンタンなどがあり、飲み物としては生ビールが〝売り〟だったようだ。

いずれにしても当時の浅草は、新しいメディアだった映画や、いきのいい演芸などが楽しめる娯楽の中心地で、休日のにぎわいたるや、押し合いへし合いを地でいく繁華街だった。それだけに、初めてのラーメン店といえども、もの珍しいだけではたちまち淘汰される運命にあったはずで、味も装いもしっかりしたものだったに違いない。後に続くラーメン店も多くの点で来々軒を踏襲したのである。

そして昭和三三年になって、インスタントラーメンが登場し、ラーメン界の様相もがらりと変わってくる。というわけで、この博物館には、インスタントラーメンがずらりと並んだコーナーや、カップラーメンのコーナーもあって、まさに〝ラーメン全史〟をたどっている。

さらに地下へおりると、ラーメン界に革命が起こった昭和三三年当時の、東京の町を再現したワンダーランドが広がっている。そこには、いろいろな工夫が積み重なってできた空間ならではの、濃密でにぎやかな雰囲気が漂っている。建造物にほどこしたエージング加工や、当時の写真と照合してのディテール構成など、なかなか芸が細かいのである。

この頃まだ生まれてもいなかった若い人たちに、「わあ、懐かしい！」と言わせるほどの何かが、ここにはたしかにある。こんなにぎやかな博物館が、もっとあればいいのにとさえ思うのだった。

▲日本で最初のラーメン店、浅草「来々軒」の復元である。大成功をおさめたこの店は、商標登録などしなかったために、その後全国に「来々軒」が誕生することになる。 柏原力

▲「ラーメンの町に日が暮れて」というコンセプトで、町が作られたのだという。下のラーメン店は、実際に営業している。

▲おもなインスタントラーメンがそろったコーナー。エポックメーキングなインスタントラーメンも、少なくない。

▲飲み屋が並ぶ路地。夕暮れともなると、こんな路地が恋しくなり、ラーメンの看板が食欲をそそる。

●新横浜ラーメン博物館
横浜市港北区新横浜二―一四―二一
☎〇四五―四七一―〇五〇三
JR東海道新幹線などの新横浜駅下車、徒歩五分
開館時間＝一一時～二三時
休館日＝年末年始
入館料＝一般三〇〇円

女性から圧倒的共感を得た「不倫」劇
大富豪の夫に新聞紙上で絶縁状公開！
美貌の歌人、柳原白蓮の〝恋と出奔〟

「結婚当初から私たち夫婦には愛と理解が欠けていた。……私はあなたのもとを離れます」――大新聞のトップを飾った公開離縁状が、世間をアッと言わせ、大きな話題を呼んだ。伯爵令嬢の歌人・柳原白蓮が、大富豪の夫を捨てて年下の恋人のもとに走ったこの事件は、日本女性史に特筆される〝壮挙〟となった。

「離縁状」の公開に読者の七割が共感

大正一〇年一〇月二二日の「大阪朝日新聞」の夕刊は、センセーショナルな記事を掲載した。

「私は今あなたの妻として最後のお手紙を差し上げます」

▲大正10年10月22日の新聞紙上で、愛のない結婚生活を捨て、恋人との出奔を宣言した柳原白蓮。時に36歳。 平凡社提供（2点とも）

▲白蓮の恋人・宮崎竜介。雑誌の編集を経て、弁護士を開業する。29歳。

▶白蓮の戯曲「指鬘外道」の読み合わせ風景。中央・白蓮の右は伝右衛門の令嬢・初枝子、その隣が宮崎竜介。大正9年。

平凡社提供（4点とも）

▼戯曲「指鬘外道」（大正9年刊）と、その序文の原稿。この本の出版打ち合わせが、白蓮と竜介の出会いとなった。

▲明治44年、炭鉱王・伊藤伝右衛門と白蓮の結婚写真。白蓮25歳、伝右衛門は50歳だった。

と、記事中で書き出す文章の筆者は、伊藤燁子。「九州の炭鉱王」伊藤伝右衛門（六一）の妻であり、歌人としては柳原白蓮と号した三六歳の女性だった。

「結婚当初から私とあなたの間には、全く愛と理解を欠いてゐました」「併し幸ひにして一人の愛する人を与へられました」「私は、私の自由と尊貴を守り培ふために、あなたの許を離れます」

多くの人の目に触れる新聞を舞台に、女性から突きつけた「三行半」であった。

戦前の法体系のもとでは、姦通罪があった。既婚女性が配偶者以外と性的関係を持つのは、犯罪だったのである。反面、男性が妾を持つことは不問とされていた。

そうした中で、伯爵家に生まれ、大正天皇の従姉妹にあたり、著名な歌人、しかも億万長者の夫人でもある白蓮が、公然と“犯罪行為”を告白し、七歳年下の愛人のもとに走ることを宣言したのだった。

「大変なショックを世間に与えた事件でした。当時の日本の女性は、世間一般の目が、第一次世界大戦からシベリア出兵など、外に向いている中で、農業・漁業など主力産業の全面に出ていた。にもかかわらず、女性の評価は低いまま。そんな中で華族出のお嬢さんが、安定した生活を捨て、茨の道に飛びこんだ。ところが、世間から袋叩きにあうどころか、多くの共感を得た。大変な壮挙だったのです」

と言うのは評論家の小沢遼子さんだ。

事実、掲載直後から「大阪朝日新聞」には五〇〇通余りの読者の反応が寄せられたが、その七割が「（白蓮の）行動やむなし」とするもので、糾弾すべしとするものが二割。残りが中立という色分けだった。しかも、女性からの反対論は一通もなかったのである。

旧弊に翻弄された柳原白蓮の前半生

柳原白蓮は、明治一八年、伯爵・柳原前光と東京・柳島の美貌芸者との間に生まれた。いわゆる妾腹の子だった。元老院議長などを歴任した父のもとに引き取られた白蓮は、正妻にうとんぜられ、子爵・北小路家に里子に出される。息子・資武との政略結婚が含みだった。そして白蓮は一五歳で、周囲の敷いたレールのまま、子爵夫人となり、一児をなす。だが、聡明さに欠ける夫になじめなかった。夫を避け続ける白蓮は、「この妾の子がッ」と罵声をあびるにおよび、ついに婚家を飛び出す。しかし、白蓮は、世間体を気にする実家で幽閉同然の暮らしを強いられる。そして、再婚相手さがしが本人抜きで始められたのである。

やがて白羽の矢が立ったのは、一介の炭鉱労働者を振り出しに、九州屈指の大富豪になった伊藤伝右衛門だった。二五歳の白蓮と五〇歳の石炭王は明治四四年三月に結婚。ともに再婚だった。白蓮の美貌と家柄、伝右衛門の財力と社会的地位、結婚の背景は明白だった。柳原家にとっては、厄介払いがかない、伊藤サイドは、華族出身の妻というハクを手にした。だがそれは、当の白蓮のあずかり知らない話だった。要するに白蓮は、二度目の“人身御供”となったのだった。

伝右衛門は年若い妻のため、財をおしまなかった。福岡市に建てた彼女のための別邸「赤銅御殿」は、建設費だけで八〇万円。現在なら約一〇億円に相当する豪邸だった。また、処女歌集『踏絵』の出版費用六〇〇円も、彼が負担した。

そして、「御殿」に集まる文人墨客のサロンでは白蓮は「筑紫の女王」と呼ばれ、その名は全国に知れ渡ったのである。

だが、伝右衛門との夫婦関係は、冷え切る一方だった。白蓮は、伝右衛門に、妾を斡旋したことすらあった。

そうした白蓮の前に、東京帝大出身の学士、宮崎竜介（二九）が現れたのは大正九年のことである。彼は中国の革命家・孫文の支援者として知られる宮崎滔天の長男だった。そして、吉野作造らの指導で誕生した進歩的学生組織、新人会の創立メンバーでもあった。二人はたちまち恋に落ちていく。数え切れない恋文が交換され、最初は人目を忍ぶ仲だったが、白蓮が竜介の子を宿してから、冒頭の離縁状事件につらなっていくのである。

近年、こうしたストーリーは、あまりに白蓮寄りで、マスコミが作り上げたものだ、として、再評価の動きが出ている。

たとえば、白蓮は伝右衛門との結婚初夜にさめざめと涙を流したという。伝右衛門は「一平民のおれが華族出の妻より先に車に乗ったことに対する悔し涙だった」という趣旨を書き残している。しかし彼は、白蓮の不倫に対し、姦通罪で告訴もせず、円満な離婚を受け入れ、剛毅でなる筑豊の「川筋もの」らしさを通した。これらの点から、白蓮は自己中心的で、華族出身の驕慢な嫌らしさまる出しの女ではないか、という見方である。

「だが、投獄すら覚悟しなければならない状況で、女が自分の生き方を自分で選んだこと自体が大変なこと。とても普通の女にはできない選択だった。驕慢さもあったかもしれない。しかしそれは二の次、三の次のことではないか」

と、前出の小沢氏は言うのである。

白蓮は、紆余曲折のすえ、大正一二年の関東大震災後、竜介と正式に結婚した。戦後は平和運動に情熱を注ぎ、昭和四二年、波乱に富んだ八一年の生涯を閉じた。

▲昭和5年の家族のスナップ。左から白蓮、長女・蕗苳（6歳）、竜介、長男・香織（9歳）。竜介は結核の療養中で、白蓮が一家の大黒柱だった。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

倉紡記念館提供

▲**倉敷労働科学研究所創立（7月1日）** 倉敷紡績社長・大原孫三郎が設置した大原社会問題研究所から分離、暉峻義等を所長に、労働衛生などの調査研究を進めた。

▼**サッコ（右）とバンゼッティに死刑（7月14日）** 米国の強盗殺人犯として、証拠のないままイタリア移民で無政府主義の彼らが検挙され、1927年処刑。死後50年後に無罪。

PPS

▼**英哲学者・ラッセル、来日（7月17日）** 改造社の招きで、北京から病気療養を兼ねて立ち寄った。26日、東京・帝国ホテルで日本の思想家との会見を持ち、無政府主義者・大杉栄（左）とも歓談した。

「太陽」

▼**「虎狩りの殿様」登場（7月）** 尾張徳川家を継ぐ侯爵・徳川義親（34）が、南洋マレーシアで虎狩り。シンガポールのジャングルでは象を倒した。写真右は随伴した吉井大尉。

「写真通信」

「イリュストラシオン」

▲**米・デンプシーが初の100万ドル興行（7月2日）** プロボクシング世界ヘビー級選手権で挑戦者カルパンティエを4回KO。ジャージー市に集まった観衆は7万5000人。

▼**海軍霞ケ浦飛行場、開場（7月22日）** 午前9時半から開場式を挙行。写真はアブロ式504K型機の前で記念撮影する、英国航空教官団先遣隊員。4月に航空術講習所が設置されていた。

大正10年7月

1（金）●中国共産党、上海で創立大会を開く。
●倉敷労働科学研究所（所長・暉峻義等）創立。
2（土）●神戸の川崎造船所、労働総会への自由加入など八項目要求（8日スト）。
3（日）●モスクワで赤色労働組合インターナショナル（プロフィンテルン）創立大会。
4（月）●幣原喜重郎駐米大使、日英同盟は米国に対抗する意図を有せずと声明。
5（火）●全国工業博覧会、京都・岡崎公園で開幕。
6（水）●帝国農会、第二次米買い上げを建議。
7（木）●大阪・天王寺で大阪失業者大会開催。
8（金）●古賀廉造、中野有光らの阿片事件予審が終結。
9（土）●銀座通りの街路が木製レンガ敷きにと新聞に。
10（日）●神戸で三万人が参加、空前の労働大示威運動。
11（月）●航空研究所、東京帝大の付置機関として独立。
●米、日・英・仏・伊に軍備制限と極東問題を討議するワシントン会議開催を非公式に提案。
12（火）●川崎造船所の工員、工場管理宣言。
13（水）●日本アルプスの高山植物採集が禁止と新聞に。
14（木）●川崎・三菱両造船所のストに対し、姫路師団一個大隊（七〇〇人）出動。
15（金）●東洋紡績、上海工場新設を決定。
16（土）●文芸家の職能団体、小説家協会できる。
17（日）●英の哲学者、バートランド・ラッセル来日。
18（月）●京成電鉄、船橋—千葉間開通。
19（火）●米カリフォルニア州で排日運動。日本人農業労働者一五〇人放逐。
20（水）●鉄道事業費の国債一〇〇〇万円発行告示。
21（木）●スペイン領モロッコで先住民リーフ族が反乱。
22（金）●茨城県霞ケ浦の海軍飛行場開場式。
23（土）●臨時教育行政調査会（学校統廃合・教員整理案など諮問）設置。
24（日）●石川島造船所工員ら、造機船工労働組合結成。
25（月）●名古屋鉄道管理局、風紀上男生徒は車両前部、女生徒は後部への乗車を決定、と新聞に。
26（火）●シベリアで過激派が鉄道爆破、列車が転覆し三輪秀一大佐以下一三人が戦死。
27（水）●バンティング、初のインシュリン抽出。
28（木）●英、大英帝国の無電連絡網作り着手と新聞に。
29（金）●ヒトラーがNSDAP（ナチス）党首に就任。
30（土）●秋田の生保内軽便線、大曲—角館間開通。
31（日）●呉海軍工廠、女子工員一九七二人の解雇決定。
●教育四団体、兵役短縮による軍事費節約と、教育費捻出運動開始、と新聞に。

「写真通信」

▼**米国野球チーム、東京で転戦（8月31日）** オール・カナディアン・スターズ（写真）が来日。この日から明大、慶大などと対戦、セミプロとはいえ、日本の大学野球などを相手に優れた技量を見せつけた。

「写真通信」

▲**東京—盛岡間、郵便飛行（8月21日）** 帝国飛行協会が第3回の懸賞飛行を挙行。参加者5人5機で開催し、午前8時15分から次々、代々木練兵場を出発した。うち3機が目的地に到着したが、帰還飛行は中止となった。写真は出発前の様子。左上は参加者たち。

▲**東条英機、欧州留学（7月）** 大正4年に陸大卒後、陸軍省副官、スイス駐在を経て、この月から1年余ドイツに駐在。20年後に首相になる人物の、ステッキに帽子を持った背広姿。

▲**石原純（40）、不倫スキャンダル（8月2日）** 情熱の歌人・原阿佐緒（32）との「自由恋愛」が世間を騒がせ、世界的理論物理学者である東北帝大教授の休職が閣議決定。

▼**アインシュタイン天文台誕生（8月21日）** ドイツのポツダム郊外に建設。焦点距離15メートルの塔望遠鏡があり、相対性理論の予言のひとつ「重力場における光の赤方偏移」を実証。

▼**広島で陸軍火薬庫爆発（8月8日）** 広島市の東南、比治山の麓にある第5倉庫が突然、大音響とともに崩れ、無数の小銃弾が付近に飛散した。死者7人、重傷21人。作業員の搬送中の過失が原因とされた。

「写真通信」

大正10年8月

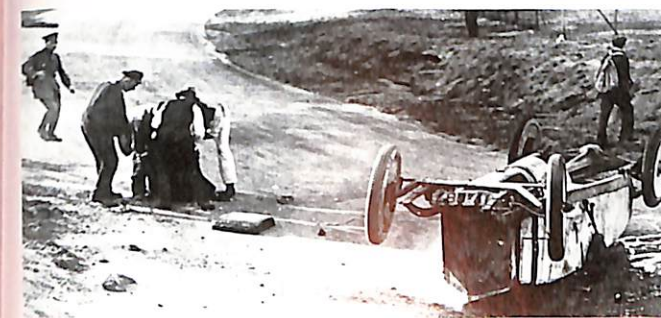
1（月）●東山、新逢坂両トンネル完成にともなう東海道本線京都—大津間の新線完成。
●愛媛県宇和島、市制施行。
2（火）●閣議、歌人・原阿佐緒との恋愛問題で辞表提出の東北帝大教授・石原純の休職を決定。
3（水）●伊社会党幹部、ファシストと休戦協定。
4（木）●最新設備の順天堂病院研究所竣工と新聞に。
5（金）●根室本線全通。北海道横断路線完成。
6（土）●東京市や郡部に二万頭の野犬、と新聞に。
7（日）●カムチャツカの日本漁船、ウラジオ政府監視船に発砲される。
8（月）●陸軍懲罰令改正し営倉罰廃止、と新聞に。
9（火）●鈴木梅太郎ら合成酒の特許を取得。
10（水）●日本初のダンス専門楽団、東京ジアツ・バンドが結成される。
11（木）●物価値上げ監視の「世帯の会」設立と新聞に。
12（金）●広島電灯・呉電力が合併し広島電気設立。
13（土）●外務省に情報部が新設される。
14（日）●工場で工場歌や休憩歌が流行、と新聞に。
15（月）●西武鉄道、武蔵鉄道を改称して創立。
●大阪師団、大阪城を一般公開する。
16（火）●神奈川県箱根の大文字焼き始まる。
17（水）●英で酒類販売が免許制に。
18（木）●大阪府立医大の藤村元張助教授、国立大以外では初の医学博士に。
19（金）●農商務省、暴利小売商取締り励行を通牒。
20（土）●山崎今朝弥、布施辰治ら、自由法曹団結成。
21（日）●東京—盛岡間、第三回郵便飛行に五機参加。
22（月）●独統一共産党イエナ大会、開催。
23（火）●英、前シリア王・ファイサルをイラク王と宣言。
●川上俊彦ポーランド公使、ソ連の対日平和提案につき人民委員代理のカラハンと交渉開始。
24（水）●英で製造、試験中の世界最大の米飛行船R・38が爆発、四四人死亡。
25（木）●輸入木材過多で横浜港の荷役不能となる。
26（金）●極東共和国との通商交渉を大連で開始。
27（土）●第一回国勢調査（9年10月1日実施）の結果発表。本土人口五五九六万三〇五三人。
28（日）●富士登山者十余名、山上で凍死。
29（月）●東京市営月島住宅の抽選、一八〇戸に約二六〇〇件の申し込み。
30（火）●日本・パラグアイ通商条約、公布。
31（水）●住友倉庫部、東京・越前堀に鉄筋コンクリート造り五階建て倉庫を建築。

▲**大河内正敏、3代目理研所長に就任（9月30日）**研究員に本多光太郎、池田菊苗、長岡半太郎、鈴木梅太郎ら。研究の商品化を促進、後のコンツェルンの基礎を築いた。中央が大河内。

◀**皇太子を迎える重臣たち（9月3日）**欧州5ヵ国を半年間巡遊された裕仁親王が帰国。横浜港で軍艦「香取」の到着を待つ、右から野田逓信相、原首相。左から東郷元帥、加藤憲政会総裁ら。

「写真通信」

bpk／デジタルハウス

▶**平沢計七、山本懸蔵を送る（9月5日）**日立鉱山争議に連座し入獄する同志の送別会。和服姿が平沢（32）。この年2月に労働劇団公演を行い、プロレタリア演劇を主導、危険人物視されるようになった。

◀**ドイツ初の高速道路「アブス」が完成（9月19日）**ベルリンのグリューネヴァルトからヴァンゼー間の10キロ。2車線、タール舗装、10ヵ所の陸橋により、全区間立体交差。写真は時速120キロでカーブを曲がりきれず横転した初の事故。

日本山岳会提供

▶**日本陸軍機、所沢ー長春間大飛行（9月27日）**サムエルソン式4機で出発したが、3機が脱落、樋口正治中尉の機だけが翌月5日、初の海外飛行をなしとげた。

◀**槇有恒、アイガー東山稜を初登攀（9月10日）**アルプスの高峰（3970メートル）に挑戦、日本人初の海外登山成功でもあった（中央）。27歳。昭和31年には、日本隊のマナスル登頂の指揮をとった。

「写真通信」

大正10年9月

1（木）●岩手県会、木炭の県営検査を開始。
2（金）●日本青年館設立。理事長・近衛文麿。
●テニスの熊谷一弥、清水善造、日本人として初めてデビスカップに出場し、決勝進出。
3（土）●皇太子、ヨーロッパ外遊より帰国。
4（日）●名古屋の一柳葬儀店、日本初の霊柩車の広告。
5（月）●政府、投機抑圧の方針を発表。
●国際連盟第二回総会、開会。
6（火）●極東共和国、大連会議で二九ヵ条協約提出。
7（水）●小幡駐華公使、山東問題の譲歩案を提出。
8（木）●日本海運集会所の前身、神戸海運集会所設立。
9（金）●早大の招待でワシントン大野球部来日。
●グアテマラ・ホンジュラス・サンサルバドルが中米連合を結成。
10（土）●槇有恒、アルプスのアイガー東山稜に初登頂。
11（日）●独でキャバレー「ヴィルデ・ビューネ」開店。
12（月）●東株仲買人らにより証券融通会社設立を決定。
13（火）●大阪の実業家を中心に「むだせぬ会」結成。
14（水）●樺太油田で一日一〇石の出油に成功と新聞に。
15（木）●新宿御苑の一部、永久無償で東京市に貸与。
16（金）●警視庁、砂糖、呉服業者などの暴利に戒告。
17（土）●尾崎行雄、吉野作造、軍備縮小同志会結成。
18（日）●帝国衛生会、国立体育研究所設立を決議。
19（月）●世界初の高速自動車道路がベルリンに完成。
20（火）●陸軍省、在郷軍人会館の建設決定。
21（水）●独の染色工場でニトロ化合物が爆発。五三五人死亡、一三マイル離れた地点でも犠牲者。
22（木）●国際連盟、エストニア・ラトビア・リトアニアの加盟承認。
23（金）●警視庁、銀行や会社に雑誌や新聞を送り、金をたかる悪徳記者の追放に乗り出す。
24（土）●衆議院議長、政友会機関紙とするため「京都日出新聞」を買収、と新聞に。
25（日）●日本女子大学校、初の社会事業部を創設。
26（月）●東京地裁、民事事件の即決仲裁裁判を区裁で試みに実施、と新聞に。
27（火）●陸軍機四機、所沢ー長春間の初の海外飛行に出発（10月5日、一機のみ長春着）。
28（水）●安田財閥の創設者・安田善次郎、国粋主義者の朝日平吾に刺殺される。
29（木）●独マルク、対ドル一二三七マルクに暴落。
30（金）●子爵・大河内正敏、理化学研究所長に就任。
●婦人および児童の売買禁止に関する国際条約調印（大正14年12月15日発効）。

宝塚歌劇団提供

交通博物館提供

▶**鉄道50年記念祝典開く（10月14日）**明治5年、新橋ー横浜間に「陸蒸気」が走ったのが最初。営業距離は1万500キロに。東京駅前式場で皇太子が祝辞、関係者ら約2000人が万歳三唱。写真は記念ポスター。

◀**宝塚に月組・花組誕生（10月）**少女歌劇団として7年目。演目・公演数ともふえてきたため、成人向き歌劇は月組（下）、お伽歌劇は花組と二分した。月組には天津乙女、春野若子らがいた。

「写真通信」

▲**東京・築地の歌舞伎座、全焼（10月30日）**11月興行の準備中、電気室から出火、全館木造だったため火はたちまち燃え広がり、死者3人、行方不明一人を出した。原因は漏電。

▼**友愛会、日本労働総同盟と改称（10月1日）**運動高揚のさなか、東京で創立10周年大会が開かれ、労資協調の意の「友愛」を削除。写真は銀座をデモする幹部、右から鈴木文治、賀川豊彦。

「写真通信」

▶**良子女王のマツタケ狩り（10月）**元老・山県有朋の反対で「宮中某重大事件」と騒がれたが、宮内省が2月に皇太子婚約者に変更なしと発表、9月には納采の儀も挙行。やっと京都の秋を楽しむ余裕も。

◀**大正天皇平癒祈願（10月）**宮内省が4日に病状悪化を発表すると、国民が各所で回復を祈って集まった。写真は18日、大阪・天王寺遥拝所での平癒祈禱式。大阪全市の小学生が祈りを捧げた。

「写真通信」

「写真通信」

「写真通信」

大正10年10月

1（土）●大日本労働総同盟友愛会、創立一〇周年記念大会（日本労働総同盟と改称）。
●和辻哲郎編集「思想」創刊。
2（日）●東京・小石川で狂犬が七〇人を噛む。
3（月）●森永製菓、銀座にキャンディストア開設へ。
4（火）●天皇の病状悪化発表で株、米などの相場下落。
●国際連盟、レーニンの援助要請を拒否。
5（水）●ロンドンで国際ペンクラブ、設立。
6（木）●東京市、池袋に浮浪児の収容所新設と新聞に。
7（金）●「大阪毎日新聞」、グラビア印刷を開始。
●陸軍、フランス製偵察用複葉機の試験飛行。
8（土）●東京大林区署、管下の国有林に狩猟区設定。
9（日）●東京・戸山ケ原で訓練の兵が、銃を忘れたり、商売女に引きこまれるなど軍紀紊乱が新聞に。
10（月）●三菱製紙、マニラ麻による障子紙の製造開始。
11（火）●京都府綾部の大本教神殿に取り壊し命令。
12（水）●原敬首相、文官初の海相臨時事務管理に就任。
13（木）●閣議、ワシントン会議では軍縮主眼の方針と。
14（金）●鉄道五〇年祝典。東京・神田の鉄道博物館、一般公開。
15（土）●岐阜県、小作運動弾圧のため警察犯処罰令の追加条項（農業警察令）、制定。
16（日）●内務省、低所得者の生活調査実施と新聞に。
17（月）●台湾文化協会（政治団体）、結成。
18（火）●石川島造船所、一時間に一〇〇マイル飛行可能の波上飛行機を製作。
19（水）●東京慈恵医大・京都府立医大、設立認可。
20（木）●歌人・柳原白蓮、失踪。炭鉱王の夫・伊藤伝右衛門と別れ、年下の宮崎竜介と結ばれる。
21（金）●長崎県で一戸一円の募金。初の共同募金。
22（土）●警視庁、防火のため戸別の電気使用調査実施。
23（日）●皇太子、隅田川で日本漕艇協会レガッタ観戦。
24（月）●活動写真はチャップリンの喜劇がすたれ、人情物人気、と新聞に。
25（火）●別府で政友会側の国粋会と憲政会側の労愛会がピストル、日本刀で乱闘。重傷三人。
26（水）●北大阪電鉄、豊津ー千里山間（現・阪急千里線）開業。
27（木）●陸軍少佐・永田鉄山ら三人、独のバーデンバーデンで会合し、結束提案（二タ会の始まり）。
28（金）●森戸事件連座の大内兵衛東大助教授に特赦。
29（土）●司法省、囚人労働を一二時間半へと新聞に。
30（日）●東京・歌舞伎座、漏電で全焼。三人焼死。
31（月）●憲兵隊、観兵式での写真撮影を初めて許可。

「歴史写真」

毎日新聞社

▶皇太子裕仁、摂政に就任(11月25日) 天皇の病気回復がはかばかしくないため、憲法・皇室典範により皇族会議と枢密顧問の議で決定。満20歳だった。写真は赤坂離宮の執務室で。

◀東京で陸軍大演習(11月17日) 東西に分かれ、早朝から模擬攻防戦が始まった。写真は東軍の防御を担い代々木におかれた新鋭武器・飛行機聴音器。敵機襲来を探知、高射砲で撃滅する。

▼女性パイロット第1号(11月29日) 兵頭精子さん(22)で、3等飛行士免状を取得した。「30時間も同乗でやらねば単独になれぬ、陸軍の連中とは違います」と意気さかんだった。

毎日新聞社

毎日新聞社

▶高橋是清内閣成立(11月13日) 原首相暗殺の後を受け、高橋蔵相(67)が政友会総裁・首相に就任。「だるま宰相」と親しまれたが、通算7つの内閣でつとめた蔵相として著名。

毎日新聞社

▶軍備制限民衆大会開く(11月13日) 東京・上野公園に約300人が集合。9月には尾崎行雄・吉野作造らが、軍備縮小同志会を結成。前日にはワシントン軍縮会議が始まっていた。

日本郵船歴史資料館提供

◀豪華貨客船「箱根丸」竣工(11月1日) 三菱造船が建造、1万423トン、乗客定員307人。昭和初期まで欧州航路の花形で、岡本一平・かの子、横光利一らもこの船を利用した。

大正10年11月

1(火) ●乳児院の先駆け、大阪・堀川乳児院開設。
●長野県上田に信濃自由大学設立。以後新潟・福島県などに自由大学運動広がる。

2(水) ●埼玉県佐谷田村小作争議で小学生が同盟休校。
●マーガレット・サンガー提唱の米産児制限連盟、設立。

3(木) ●北海道鬼志別で「龍華丸」難破。三五人溺死。

4(金) ●原敬首相、東京駅頭で中岡艮一に刺殺される。

5(土) ●山口県下関港の築港工事着工。

6(日) ●宮中で後継宰相について元老会議。

7(月) ●川崎造船所神戸工場で戦艦「加賀」進水。

8(火) ●在京朝鮮人学生、約二〇〇〇人が同盟休校。

9(水) ●東京・大阪・浦和・福岡各高等学校創設。
●ムッソリーニ、正式に伊ファシスタ党結成。

10(木) ●仏の作家、A・フランスにノーベル文学賞。

11(金) ●日本郵船、近藤記念海事財団を創立。

12(土) ●ワシントン軍縮会議、開催(~翌年2月6日)。

13(日) ●高橋是清内閣成立。原内閣の全閣僚留任。
●浅野造船所で最初の航空母艦「鳳翔」進水。

14(月) ●英の日本の満州移民是認に中国が反発声明。

15(火) ●陸羽西線・吹浦—象潟間、開通。

16(水) ●世界労働会議、農業に従事する児童年齢に関する条約採択。

17(木) ●井上準之助日銀総裁、消費節約を提唱。

18(金) ●陸軍大演習の報道通信に伝書鳩活躍と新聞に。

19(土) ●東京帝大農学部で第一回全日本バスケットおよびバレーボール選手権大会開催。

20(日) ●東京・お茶の水博物館で、活動写真展覧会。伊藤博文の遭難や乃木大将の凱旋園遊会など。

21(月) ●慶大の大森憲太教授、東京医師会で脚気はビタミン不足によることを実証と発表。
●仏詩人・クローデル、駐日大使として着任。

22(火) ●米・籾の輸入税が一一年一〇月末まで免除。
●戦艦「陸奥」、横須賀海軍工廠で完成。

23(水) ●アメリカで母性保護法が成立。

24(木) ●東京天文台設置(東京帝大理学部より独立)。

25(金) ●皇太子裕仁、摂政となる。

26(土) ●第一回全日本蹴球選手権大会、東京・日比谷公園で開催(東京蹴球団、優勝)。

27(日) ●逓信省、電話の自動交換化計画着手と新聞に。

28(月) ●久布白落実ら婦人運動家、処女保護法案を国会提出かと新聞に。

29(火) ●呉海軍工廠で初の日本式潜水艦第44号進水式。

30(水) ●東大新人会、学生の学内思想団体に衣替え。

「写真通信」

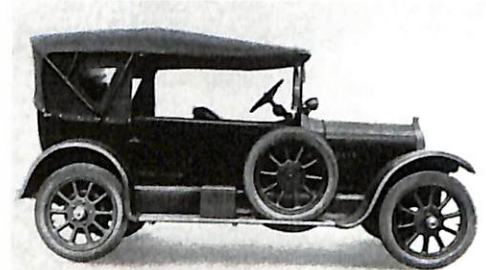
証言・あの日この日
木佐木 勝(26)

7月25日(月) 〈最近の改造社のやり方は随分派手になって来たようだ。社長の山本氏はラッセルを第一陣に、将来世界的な学者、思想家を招待して、日本の学者、思想家との意見交換を行ない、講演会などを開催して大いに日本の文化に貢献するつもりだと豪語しているそうだ／山本はほら吹きだという噂もあるが〉(木佐木勝『木佐木日記』)

改造社は、この頃『死線を越えて』(賀川豊彦)の大ヒットで急成長。しかも社長の山本実彦は、この本で得た資金を使って、世界的な学者や思想家を日本に招待することを計画。当時、中央公論社社員の木佐木も、その大胆な企画に度肝を抜かれる。そしてこの年、哲学者・ラッセルが、翌年に「相対性理論」で有名な物理学者・アインシュタインが相次いで来日。思想界や学会だけでなく、青少年までもが強い衝撃を受ける。(山崎行太郎)

▼幻の国産乗用車第1号(12月31日) 東京・深川の石川島造船所が英ウーズレー社と提携、4気筒のガソリンエンジン車を完成。試運転で軽快だったが、祝杯に酔った運転手が電柱に衝突させた。

▲第1次大戦の対ドイツ戦利品(12月5日) 夜間爆撃でパリに恐怖を与えたツェッペリン型飛行船の残骸と飛行機(左上)。ベルサイユ条約によって得たもので、東京・築地の海軍参考館に展示された。

▼東京、全市断水(12月10日) 玉川から淀橋浄水所へ分流している幡ケ谷(現・渋谷区)の送水路堤防が、地震で決壊。横浜市から給水船が隅田川経由で水を運び、配給のため小舟も使われた。

「歴史写真」

毎日新聞社

「警視庁百年の歩み」

▲街頭に火災報知機、初登場(12月13日) 警視庁が、日本橋品川町はじめ56ヵ所の街頭に設置。非常の場合には、前面のガラスを破ってボタンを押すと、各消防署・警察署などに電流で出火発生場所を知らせる。

◀摂政宮、尾上松之助を観る(12月8日) 東京・お茶の水博物館活動写真展覧会で、日本活動写真が楠公父子別れの場面を実演。楠木正成が子の正行に忠孝の道を説くくだりを尾上松之助(46、右)が熱演した。

「歴史写真」

大正10年12月

1(木) ●「時事新報」、日英同盟廃棄とそれに代わる四カ国条約成立をスクープ。

2(金) ●警視庁、暁民共産党事件の経過発表。

3(土) ●九州帝大・久保博士のもとへドイツ人医学博士が耳鼻咽喉科研究のため留学と新聞に。

4(日) ●東京でロシア飢饉同情労働会演説会。

5(月) ●米国帰りの渡辺勇次郎、日本拳闘クラブ設立。

6(火) ●住友吉左衛門、大阪・茶臼山の邸宅約二万坪を公開用地として市に寄付。

7(水) ●政府米一〇万石払い下げ発表で米価暴落。

8(木) ●東京を中心に明治二八年以来の強震。

9(金) ●極東共和国遣米使節団、日本によるシベリア植民地化の危機を訴え。

10(土) ●東京・淀橋浄水路破損し、広範囲で断水。

11(日) ●陸・海軍、将校下士官の結婚制限緩和と新聞に。

12(月) ●日本窒素肥料、ローマでカザレー式アンモニア合成法の特許実施権を買収。

13(火) ●東京の街頭に火災報知機が設置される。
●ワシントン軍縮会議、日・米・英・仏四カ国条約締結(水上艦艇保有が対英米六割。日英同盟、廃棄。太平洋の領土関係の現状を承認)。

14(水) ●初の私立七年制高校、武蔵高等学校認可。

15(木) ●川上・カラハン会談、五回で終了。

16(金) ●銀座通り開設五〇年祭、開催。

17(土) ●麦の本年度実収高二一六六万石と発表。

18(日) ●静岡県藁科村の大原街道で土砂崩れ、乗合馬車含め一一人生き埋め。

19(月) ●子どもの遊びから双六が衰退、と新聞に。

20(火) ●出獄した荒畑寒村を出迎えの逸見直造、三田村四郎ら検束。

21(水) ●東京市会、安田家寄付の三五〇万円で日比谷公会堂建設を決定。

22(木) ●三重高等農林など新設実業専門学校五校決定。

23(金) ●内務省、列車犯罪の急増で鉄道警察実施へ。

24(土) ●ガンジー、インド国民会議派最高指導者に。

25(日) ●東北帝大付属鉄鋼研究所、独立予定と新聞に。

26(月) ●東京・小宮村の小作人五〇人余、小作料三割減を要求し小作地返還(翌年5月、要求貫徹)。

27(火) ●内務省、前年同文書院入学の中国人留学生施存続にロシア共産党スパイとして退去命令

28(水) ●内務省調べで全国の小作人団体は五六九。

29(木) ●島崎藤村が女性だけの雑誌創刊予定と新聞に

30(金) ●東京・渋谷郵便局、賀状配達を午前零時開始に

31(土) ●石川島造船所、国産乗用車第 号完成

流行語

のらりくらりの役人め！

「暖簾の問屋」。外務省のこと。ワシントンの軍縮会議の進展ぶりはジャーナリズムだけでなく、陸・海軍、政界、財界にとっても重大な関心事だったが、外務省の役人は暖簾に腕押し、のらりくらりとちっとも要領を得ない。このことから暖簾に腕押しの集団という意味で、こう呼ばれた。

「耳隠し」。男性に媚びを売る女性のこと。女性のヘアスタイルとして両耳を隠す型が大流行、特に女優・栗島すみ子の耳隠しは人気があった。しかし女優が売春婦並みにみなされていたせいもあって、インテリ女性の反発も強く、女性の間で「あの人は耳隠しだから」と言えば、男べったりの女を意味することになった。

「白蓮する?」。いうまでもなく柳原白蓮の不倫事件（二七ジペー参照）から出た言葉で「浮気しない?」といった意味。カフェなどでの遊びの会話として、大流行した。

「ペン・マン」。昔、無冠の帝王と言われた新聞記者も、この頃は圧力に屈したり、逆に媚びを売るケースが目立ってきた。そういう記者のことを、学生たちの間でこう呼んだ。

◀1月17日、大阪市中央公会堂でキリスト教婦人団体である婦人矯風会主催の大歌劇会が開催された。

「写真通信」

文化

発明パワーはひと皿の洋食から

浜地常康君（二四）が五月、アマチュア無線の免許第一号を授与された。浜地君は少年の頃から天才発明家として、その名を知られた人である。その天才ぶりを紹介すると、同君が実用新案の第一号を取得したのは小学五年生の時で、絵の具皿と筆洗いを合わせた改良筆洗いを考案した。また、六年生の時にはスクリューを応用した蒸気自動車で特許、軽便杭打ち機と軽便製塩機で実用新案の登録を受けた。こうしてこれまでに受けた特許が砂鉄採取機、加減計算尺など一三種、実用新案は一〇〇以上。

なぜ、そんなに発明に熱中したかと言えば、何か考案すると母親がごほうびに洋食をひと皿出してくれた。この洋食がおいしかったので、何度も食べたくなったのがきっかけだという。なお同君の中学校時代の成績は物理、化学、数学は九〇点以上だったが、それ以外の科目は並みだったそうである。

（「武侠世界」一〇月号）

CM100年

新聞・雑誌CM「胃の平和会議——ホシ胃腸薬」（星製薬）

胃の平和會議

數多の胃は集りて云へり、我等若し消化不良、溜飲、胃痛、下痢等の外敵に惱さるゝあらば宜しくホシ胃腸藥に命じて國土の確立を完ふすべし、と。

赤い罐

携帶用には ホシ胃腸錠 あり

東京 星製藥株式會社

▲この年ワシントン軍縮会議が開かれ、世界会議をもじったCMが登場した。

▲吉岡鳥平画「女車掌」。大正八年三月、東京で本格的なバス運行が始まり、車掌の「オーライ」「ストップ」という言葉が珍しがられた。「お目出度い群」収録。

日本漫画資料館提供

データ

くよくよしないが一番長生きできる法

医師の三田谷啓氏が「日本人はどうすれば長生きできると考えているか」を調査した。回答は二七五人。上位五つは、①くよくよしない＝六五、②食べ物に注意＝四一、③よく働く＝四〇、④早寝・早起き＝一七、⑤信仰＝[illegible]。

（「太陽」六月一五日号）

▶赤玉ポートワインが「特売」という売り方を開始。目玉景品だった箱火鉢。

サントリー提供

はやり歌

日本近代文学館提供（2枚とも）

めえめえ児山羊

作詞　藤森秀夫
作曲　本居長世

めえめえ
森の児山羊　森の児山羊
児山羊走れば
小石にあたる
あたりゃあんよが　あ痛い
そこで児山羊はめえと鳴く

めえめえ
森の児山羊　森の児山羊
児山羊走れば
株こにあたる
あたりゃあたまが　あ痛い
そこで児山羊はめえと鳴く

▲雑誌「童話」4月号の巻頭に掲載された童謡。この雑誌には藤森秀夫の童謡が連載されていた。作曲の本居長世は、当代きっての人気作曲家。

藪こあたれば
腹こがちくり
朽木あたれば
頸こが折れる
折れりゃ児山羊は
めえと鳴く

七つの子

作詞　野口雨情
作曲　本居長世

烏　なぜ啼くの
烏は　山に
可愛い七つの
子があるからよ

可愛　可愛と
烏は啼くの
可愛　可愛と
啼くんだよ

山の古巣に
いって見て御覧
丸い目をした
いい子だよ

◀雑誌「金の船」七月号に掲載。この雑誌でも巻頭口絵に続いて、オリジナル童謡のページが設けられていた。

JASRAC（出）許諾第9801235-801号

三面記事

英雄の、もうひとつの〝記録〟

昨年、五三本の本塁打をかっ飛ばし、本塁打の世界記録を大幅に更新したベーブ・ルース君は、人気の面でもこれまでの記録を次々に塗り替えている。このほど球団関係者によってその記録がまとめられたが、それによると昨年四月から九月までの半年間に、ルース君が握手した人の数は約三万六〇〇〇人で、一日当たり約二〇〇人。これは球場周辺での数を調査したもので、汽車の中やレストラン、劇場などで求められる握手は含まれていない。またファンに請われてカメラの前に立つこと約三五〇〇回、ファンレターは半年で五万通を突破した。

何よりも驚くのはルース君の写真だけを専門に扱う販売店がアメリカ全土で二九〇も登場したこと。これらの店は等身大のルース君の写真を飾り、「ルース君の知己となれ」と記した看板を掲げているが、この巨大写真と文句が少年ファンの心をつかんで、いずれも大繁盛し、一年以内には店の数は倍になるだろうと予想されている。

（「運動画報」五月二五日号）

「写真通信」

▲夏を無益にすごすまいと、朝8時から2時間の女子かな書き講習会。8月7日から目黒児童楽園で。

事件

四〇年前に拾った証書の金を払え

「四〇年前に拾った預金証書の金を、全額払い戻してほしい」という珍しい訴えが、東京地裁へ提出された。訴えたのは大阪市の村上安太郎という男性で、明治一三年、福田常三郎という人物が、三井銀行大阪分店へ数回にわたって一六万円を預けたが、その後、この証書は別の人に拾われて警察に届けられ、ある期間を経過した後に拾った人のものとなった。村上はこれを譲り受けたというもので、一六万円に四〇年間の複利を加えた一二〇万円を要求した。

これに対して同行は一六万円の預金は認めたものの、福田署名の九七銭五厘の受取証があるのを「全額支払った証拠」と主張して支払いを拒否、裁判となった。

（「東京朝日新聞」五月二四日）

社会

生殖力減退？「華族の人口減」

東京市中に本籍を有する華族の総人口は二八四二人で、男一四三八人、女一四〇四人となっている。前年と比べると二七人減、五年前からは一一五人減、一〇年前との比較では、もっと激しく減少していた。

士族および平民は非常な割合で増加しているのに、なにゆえ華族の人口だけが減少するのか。その理由として華族の一般的な生殖力減退、それに貧乏華族の子女が平民の富豪に嫁いだり、養子縁組みしたりした結果であろうと言われている。

（「読売新聞」四月九日）

◀三高との野球試合を応援するため京都駅に着いた一高名物の応援太鼓隊一行。八月二八日、三対二で一高が春の雪辱。

「写真通信」

▶一一月一四日、大阪・堂島の渡辺橋に、修繕なったばかりの消防自動車が激突。欄干を突破したが、墜落はまぬがれた。

「写真通信」

この年の初もの

動物専門歯科医米シアトルで開業

●ビンに栓をする機械　ビールビンなどの栓を抜いた後、もう一度栓をする装置で、ドイツから輸入。コルク栓やサイズの違う栓用もあり。

●化学濾水器　パームロッチ式濾水器と言い、水道の細菌を八〇％殺菌するというふれこみ。一台三六円。

●移動図書館　自動車の後部に本棚を備えたもので、米ポートランド市が山間の住民のため考案

世界の動き

「笑いと、そして一粒の涙……」“ドタバタ”を超えた喜劇映画の大傑作 チャップリンの「キッド」、大当たり!

▶「キッド」で、貧しくとも心やさしい浮浪者を演じたチャップリンと、捨て子のキッド役のジャッキー・クーガン。

FIRST NATIONAL　Charles Chaplin　courtesy of The Kobal Collection　G.I.P.Tokyo

©FIRST NATIONAL,courtesy of The Kobal Collection／G.I.P.Tokyo(2点とも)

▲「犬の生活」(一九一八年)のチャップリンと、踊り子のエドナ・パービアンス。すでに、ドタバタ喜劇からの脱皮がうかがえる記念碑的な作品。

▶「のらくら」(一九二一年)で、例によって浮浪者を演じるチャップリン。ステッキ、だぶだぶズボンにドタ靴は、彼のトレードマーク。

「おかしくて笑っているうちに、今度は涙がとめどもなく流れてきて……。こんな素晴らしい映画は初めてだ」

ギャグだけでなく、笑いの中に人間の心に訴えるドラマを織りまぜたチャップリンの「キッド」は、それまでのドタバタ喜劇の常識をくつがえすものであり、世界中に一大旋風を巻き起こした。

笑いの中に涙あり 喜劇王の初の長編

一九二一年一月二一日、チャールズ・チャップリン(三二)脚本・監督・主演の映画「キッド」が、ニューヨークのカーネギーホールで公開された。

「皆さんはこの映画を笑いと、そしておそらく一粒の涙とともに見るでしょう」

「彼女のただひとつの罪は、母であることでした」

当時、映画はまだサイレント(無声)の時代。「キッド」はこの二つの字幕から始まる。男に捨てられた貧しい女が赤ちゃんを泣きながら捨てるシーンに続き、だぶだぶズボンにドタ靴、ステッキに山高帽、我らがチャーリーの登場である。

散歩中、チャーリーは赤ちゃんを拾う。しかし、貧しい彼に子どもを育てる力はない。目をつむり赤ちゃんを捨てようとするが、そこに警官が……。次には通りかかった乳母車に入れようとして怒鳴られ、結局、自分で育てることとなる。

五年の歳月がたった。成長したキッドとチャーリーの仕事はガラス屋である。

まず、キッドが道端の石を拾って窓に投げつける。驚いた家人が外に出てきた時には、キッドはもう逃げ去っている。

「畜生、あのガキめ。それにしても、このガラスはどうしよう」。家人がたたずんでいると、そこに入れ替わりにガラス屋のチャーリー。「ちょうどいい、ガラスを入れてくれ」——親子はこうして糊口をしのいでいた。

一方、キッドの実の母は、オペラ歌手として大成。ひょんなことからキッドの消息を知り、情報提供者に一〇〇〇ドルの賞金をつけた。さらわれるキッド、必死でさがしまわるチャーリー。疲れはてたチャーリーが警官に揺り起こされ、車で連行される。ところが到着したのは警察署ではなく、大きな家である。そこでは、キッドとその母が待っていた……。

この「キッド」の大成功によって、チャップリン人気が世界中に巻き起こった。新聞は連日チャップリンの記事を載せ、チャップリンがひとたび外に出れば、群衆にもみくちゃにされ服が持ち去られるということもたびたびだった。

「それまで、喜劇と言えばドタバタが主流。全編追いかけっこで、滑ったり、転んだり。しかしチャップリンが求めていたのは、もっと人間を深く見つめた喜劇、悲劇を含んでいる喜劇でした。そういう意味で、『キッド』はチャップリン初の長編であるとともに、チャップリンが本当に作りたかったドラマだったのではないでしょうか」と、映画評論家の児玉数夫氏(現・七七歳)は語る。

また、「キッド」は多分にチャップリンの自伝的要素を含んでいる。

チャールズ・チャップリンは、一八八九年の四月一六日、ロンドンの下町で生まれた。両親はいずれも俳優であり、比較的裕福であった。しかし、両親が離婚し、母が発狂、まもなく父が死亡するなどの相次ぐ不幸に見舞われ、幼年期のチャーリーは孤児院と貧民街を往復することになる。

不遇の時代をチャップリンは忘れることはなかった。だからこそ、権力に屈することなく、常に大衆側に立った映画を作り続けたのである。

常に大衆側に立ち 権力を痛烈に批判

この「キッド」製作中、チャップリンと最初の妻であるミルドレッドとの不仲は決定的となっていた。事態は、離婚の申し立てとチャップリンの財産の差し押さえにまでいたった。

撮影を終えたばかりのチャップリンは、「フィルムがミルドレッドの手に渡れば、どんな風に編集され、どう上映されるかわからない」と、一五ヵ月間撮りためた五〇〇本分、四〇万フィート以上にもなるフィ

▶昭和三年三月三〇日、日本で封切られた「サーカス」の満員御礼広告。四月一日、映画館が新聞に出したもの

ルムを車に積み、ロサンゼルスを後にした。この時、行動をともにしたのが秘書の高野虎市である。高野は一八八九年生まれの日本人であり、一九〇四年にアメリカに渡り、一九一五年から二〇年間チャップリンの秘書をしていた人物である。

ソルト・レーク・シティの安宿に飛びこんだ時、所持金は二人合わせて五〇ドル。一番汚い部屋をあてがわれたチャップリンは、すぐさまフィルムの編集に没頭した。困ったのは高野である。なけなしの五〇ドルは、すぐ底をついた。ホテルの支配人は、部屋にこもり、あやしげな作業を続ける二人を追い出しにかかった。そんな時、高野はばったり、知り合いに会う。事情を聞いた男は「金なら私が立て替えよう」と申し出た。支配人は金を受け取りながら、怪訝な表情で、宿泊客の素性を訊いた。

「えっ、チャップリンが……」

驚いたのは支配人である。すぐさまチャップリンの部屋に飛んでいき、一番いい部屋を空けたという。

この後もチャップリンの映画は民衆を沸かせた。初めてのトーキー「モダン・タイムス」（一九三六年）では、機械文明にむしばまれていく人間性を描いた。トーキーに反発していたチャップリンは、ここでもでたらめな外国語で歌った。そして、当時ヨーロッパ諸国を次々と占領していたヒトラーを痛烈に批判した「独裁者」（一九四〇年）を製作。この映画の最後の演説部分で、チャップリンは初めて英語で台詞をしゃべった。人々に愛と平和、自由を訴えた、映画史上に残る名場面である。言葉でメッセージを送るなら、これくらいのことを言うべきだというチャップリンの気概が伝わってくる。

しかし、ヒトラーだけでなく、資本家やアメリカの軍部をも皮肉ったチャップリンは、不当な圧力を受け、一九五二年、追放されるようにアメリカからスイスへ移住することになる。

名誉が回復し、アメリカに招かれて熱烈な大歓迎を受けたのは、それから二〇年後、一九七二年のことであった。

チャールズ・S・チャップリン（1889～1977）
イギリスの映画監督、俳優。喜劇王、映画史上最大の監督と称される。代表作に「黄金狂時代」「モダン・タイムス」「独裁者」「殺人狂時代」など。

▲1921年9月9日、チャップリンは「キッド」の欧州公開のため、10年ぶりに故郷・ロンドンの土を踏んだ。世界のスターとなったヒーローを、大群衆が出迎えた。
「イリュストラシオン」

外から見たNIPPON

中国人留学生・郁達夫が小説「沈淪」で告白した"孤独"

—— 佐伯 修

▲金子光晴、森三千代夫妻らとも親交。

この年六月、日本への留学生を中心とする中国の文学青年たちが、浪漫主義的な文学結社「創造社」を創立した。中心となった郁達夫、郭沫若は、当時それぞれ、東大経済学部、九大医学部に在学中だった。郁達夫（一八九六～一九四五）は浙江省富陽県に生まれ、日本で法律を学び詩人でもあった兄に連れられて、大正二年に来日、第一高等学校予科で郭と机を並べ、名古屋の第八高等学校に学んだ。名古屋では、漢詩人・服部担風の門を敲き、東京に戻ってからは、田漢の紹介で佐藤春夫に学んだ。

そんな郁は、この年一〇月、小説集『沈淪』を出版したが、表題作の「沈淪」は、日本に留学中の主人公の、孤独で、メランコリックな内面の告白といったものである。作品の中で、傷つきやすく、自意識過剰でもある主人公は、日本の同級生たちに対しては、彼らから見下されている、という被害妄想を捨てられず、同胞の留学生仲間ともうちとけることができない。また、日本女性に心ひかれても、うまく心を伝えられず、失敗を重ねては劣等感に沈む。

「日本の級友たちが談笑しているのをみると彼等が何だか自分を笑っているような気がして、急に顔が赫くなって来る」「原来この国の人々は中国人を軽視すること吾々が犬、豚を軽蔑する様だ。この国の人々はみな中国人を『支那人』とよんである、『支那人』と云う三字は我々が人を罵るのに『賤賊』と云うよりも更にひどいのだ」

ちなみに「支那」は、英語の「チャイナ」などと同一語源で、本来、差別的な意味はない。また、郁より一五歳年長で、「清国人」と呼ばれるくらいなら「支那人」と呼ばれる方がいいと考えていた魯迅は、「支那人」という呼称に特にこだわらず、日本語で書く文章中では、自分から使っていた。

さて、作品は主人公の自殺をにおわせて終わる。彼が屈折のはて、たどり着くのは祖国「中国」への熱狂的な帰属意識だった。

「中国よ、中国、お前はどうして富強にならないのだ。私はもうこれ以上隠忍することは出来ない。故郷に明媚な山河がないわけはない。故郷に花のような美女がないわけはない。私は何を苦しんで東海の島国にやって来たのだろう」（西村捨也訳）

郁は、酒を飲む時の仕草なども日本人そっくりだったと言われ、抗日の論陣を張ったこともあるが、情にもろく、人なつこい性格も手伝って、日本人に対する親近感を最後まで捨てきれなかったようだ。彼は、日本の敗戦直後、スマトラ島で顔見知りの日本軍憲兵に欺かれ、殺害された。

往きて還らぬ

▲8月11日　前田正名(71)
明治期の官僚で農商務次官。退官後も地方産業の発展に貢献。"布衣（官位のない）の農相"と言われた。
毎日新聞社

日本郵船歴史資料館提供
▲2月9日　近藤廉平(72)
実業家。元日本郵船社長。明治28年社長となり、欧米豪の3大航路を開拓、海外運輸の道を開く。貴族院議員。

▲9月27日　E・フンパーディンク(67)
独の作曲家。ワーグナーの助手から作曲家へ進む。童話歌劇「ヘンゼルとグレーテル」(1894年)が有名。

毎日新聞社
▲8月27日　渡辺千秋(78)
明治～大正期の官僚で伯爵。幕末、倒幕運動に参加、明治25年内務次官となり、27年貴族院議員。宮内相もつとめた。

▲2月24日　橋口五葉(41)
画家。明治44年三越の美人画ポスターに応募、1等を受賞し名声を確立。代表作に「浴場の女」「化粧の女」など。

▲1月13日　伊集院五郎(68)
海軍軍人。英海軍大学校卒業。明治33年魚雷の信管を発明、日露戦争で大戦果をあげる。43年大将。大正6年元帥。

▶12月16日　サン・サーンス(86)
仏の作曲家。ピアノ・オルガン演奏の名手で、組曲「動物の謝肉祭」、交響詩「死の舞踏」、オペラ「サムソンとデリラ」などが有名。
「イリュストラシオン」

毎日新聞社
▲6月19日　鍋島直大(74)
佐賀藩最後の藩主。明治4年イギリス留学、13年イタリア公使。元老院議官。在欧中、洋画家を後援したことで有名。

毎日新聞社
▲1月27日　高木壬太郎(56)
キリスト教神学者、教育者。明治44年青山学院教授の時、『基督教大辞典』を独力で完成。大正2年青山学院院長。

▲12月29日　林有造(79)
明治期の政治家。西南戦争の際クーデターに失敗して入獄。明治23年衆議院議員。逓信相、農商務相もつとめた。

▲9月12日　大江卓(73)
政治家、実業家。神奈川県権令をつとめ、芸娼妓解放を実施。明治23年衆議院議員、後に東京株式取引所会頭。

毎日新聞社
▲7月25日　佐藤進(75)
医学者。3代目順天堂堂主で、明治7年日本人で初めてベルリン大医学部を卒業。以後順天堂医院で外科治療を行う。

▲2月8日　P・A・クロポトキン(78)
ロシアの思想家。貴族出身。無政府主義を主唱し、1902年『相互扶助論』で世界的に知られた。ほかに著書多数。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第63号 5月19日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1922［大正11年］

●特集
ハワード・カーターの勝利! ツタンカーメンの墓、"世紀の発見"／「米英日の艦隊比五・五・三」ワシントン軍縮会議と軍人"冬の時代"／大判、五色刷りの"豪華版"も登場 花開いた「児童雑誌」ブーム!／わずか二年でついえた"民主国家"の夢 シベリア「極東共和国」消滅!

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…元老・山県有朋が死去(2月1日)／産児制限運動のサンガー夫人、来日(3月10日)／スターリン、ロシア共産党書記長就任(4月3日)／シベリア派遣日本軍、撤退完了(10月25日)／伊ムッソリーニ内閣成立(10月31日)／アインシュタイン来日(11月17日)

●人物クローズアップ
「KS鋼」の本多光太郎と金属材料研

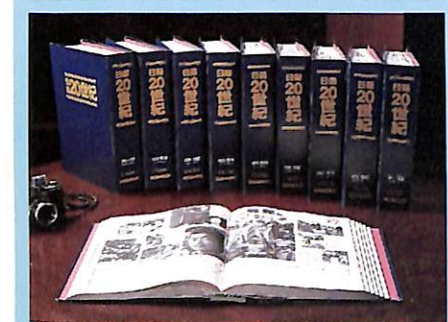
●決定的瞬間
月賦払いもOK! 田園調布の街作り

●美の出会い
ライト設計の帝国ホテル新館オープン!

●女たちの肖像…松島栄美子、ヌード広告第一号!／勝者・敗者…和歌山中、夏の大会初の連覇／証言・あの日この日…長岡半太郎、江戸川乱歩／「現場」を歩く…全国水平社創立の地／20世紀博物館…松下電器歴史館(大阪)／外から見たNIPPON…エロシェンコの「日本追放記」

●ベストセラー…志賀直哉『暗夜行路』前編／スターと名場面…L・ギッシュ「東への道」／モノ語り'22…「金鳥かやいらず」「N型万年筆」「グリコ」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊62冊! 1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九三〇年代
第43号1931[昭和6年] 第44号1932[昭和7年] 第45号1933[昭和8年] 第46号1934[昭和9年] 第47号1935[昭和10年] 第48号1936[昭和11年] 第49号1937[昭和12年] 第50号1938[昭和13年] 第51号1939[昭和14年] 第52号1940[昭和15年]

一九四〇年代
第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年] 第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第3号1945[昭和20年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年]

一九五〇年代
第36号1951[昭和26年] 第37号1952[昭和27年] 第38号1953[昭和28年] 第39号1954[昭和29年] 第40号1955[昭和30年] 第41号1956[昭和31年] 第42号1957[昭和32年] 第6号1958[昭和33年] 創刊号1959[昭和34年] 第11号1960[昭和35年]

一九六〇年代
第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第5号1963[昭和38年] 第2号1964[昭和39年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年] 第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第4号1970[昭和45年]

一九八〇年代
第57号1985[昭和60年] 第58号1986[昭和61年] 第59号1987[昭和62年] 第60号1988[昭和63年] 最新刊 第61号1990[平成2年]

■今後の刊行予定
▶第64号1924[大正13年]5月26日発売
皇太子、ご成婚●宮澤賢治「春と修羅」でデビュー●「排日移民法」成立!●孫文、最晩年の輝き!
▶第65号1925[大正14年]6月2日発売
ラジオ放送、始まる!●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生
▶第66号1926[昭和元年]6月9日発売
大正天皇崩御と"元号誤報"騒動●「同潤会アパート」出現●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急逝!
▶第67号1927[昭和2年]6月16日発売
蔵相のひとことで"失言恐慌!"●芥川龍之介、自殺●「北京原人」、出土!●「英雄」リンドバーグ
▶第68号1928[昭和3年]6月23日発売
日本、五輪初の金メダル!●「満州某重大事件」●昭和の「即位大礼」●「ミッキーマウス」デビュー
▶第69号1929[昭和4年]6月30日発売
「東京行進曲」大ヒット!●昭和4年夏"疑獄の季節"●"昭和の軍閥"「一夕会」●「暗黒の木曜日」

バックナンバーはお近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

ミニ事典
1921年のキーワード

借地法・借家法
賃借人の権利保護を目的として、土地・建物の賃貸借関係を規定した法律。四月八日公布。第一次大戦後の好況がもたらした都市の人口集中によって生じた、借地・借家にかかわるトラブルを背景に成立。民法の契約自由の原則を修正し、借地権の長期存続の確保、借家権の安定をはかった。昭和一六年の改正により、さらに借地人・借家人の保護が強化されたが、平成四年には貸し主側の権利も重視する方向が打ち出された。

自由学園
家庭生活の近代化は教育を通じてこそ可能であるとの信念から、雑誌「家庭之友」（後「婦人之友」）の主宰者・羽仁もと子と夫の吉一が四月一五日、東京・雑司ケ谷に創設した学校。キリスト教精神に基づく標語「思想しつつ生活しつつ祈りつつ」を掲げ、女子中学生二六人を五つの「家族」とし、小集団による自律的管理をめざした。同月、西村伊作による文化学院も開校、自由・自治を追求する学校が相次いで誕生した。

自由学園提供
▲大正10年4月15日、自由学園の開校式。羽仁吉一・もと子夫妻を中心に、最初の生徒26人と教師たち。

上シュロンスク帰属問題
第一次大戦後のポーランドとドイツ国境画定に際して生じた、ポーランド南西部、オーデル川以東の上シュロンスク（シュレージエン）の領有問題。国際監視委員会は三月に人民投票を行い、六割の賛成票をもとにドイツ帰属を決めたが、五月二日、ポーランド住民が蜂起。結局、上シュロンスクは分割されたが、この蜂起によってポーランドはその二九パーセントを獲得した。

▶五月二日、ドイツ帰属に反対するポーランド住民(義勇軍)が蜂起した。

日本海員組合
船長をのぞく船舶乗務員の労働組合で、五月七日、五〇〇〇人でスタート。日本唯一の産業別全国組合だった。昭和三年には、大手に比べて劣悪な待遇にあった中小の海員を含む、初の職種別最低賃金制を獲得。飛躍的に組織を拡大し、一五年には一三万人を擁したが、産業報国運動に解消させられた。戦後はいち早く、昭和二〇年一〇月、全日本海員組合として復活した。

アナ・ボル論争
労働運動の組織をめぐる、アナルコ・サンジカリズムとボルシェビズム両派の論争。前者が政党の指導をのぞいた自由連合組織を是としたのに対し、後者はロシア革命の成功を背景に共産党指導による中央集権的組織を是とした。五月九日の日本社会主義同盟第二回大会以降、対立が激化、アナ派は労働組合総連合運動の失敗、リーダー・大杉栄の死などによって急速に衰退した。

プロフィンテルン
共産党系労働組合の国際組織。赤色労働組合インターナショナルの通称。七月三日、モスクワに集まった各国代表によって創設された。改良主義的方向に進んでいたアムステルダム・インターナショナルに対抗、プロレタリア独裁による社会主義革命をめざした。日本では大正一五年、日本共産党再建後に日本労働組合全国協が加盟、昭和三年の第四回世界大会に代表を送った。

インシュリン
膵臓のランゲルハンス島のβ細胞から分泌される、血糖値を下げるホルモン。七月二七日、カナダ人内科医のバンティングと助手の生理学者・ベストがトロント大学で世界初の分離に成功。インシュリンの不足のため代謝障害を引き起こす、糖尿病患者の福音となった。二人は初めこれを「島」を意味する「アイレチン」と称したが、後に同じ意味のラテン語読み、「インシュリン」が定着した。

合成酒
原料にほとんど米を使わず、蒸留精製した発酵アルコールを用いて製造した酒。八月九日、理化学研究所の鈴木梅太郎が特許を取得、「利久」「新進」「祖国」などの名で一般に発売された。悪酔いの原因となるフーゼル油分をほとんど含まず、理研の大河内正敏所長は「現代的天の美禄」と自賛した。

暁民共産党
共産主義者・近藤栄蔵が八月二〇日、早大学生・高津正道らが結成していた学生・労働者の団体、暁民会の有志と組織した「共産党」。近藤らはコミンテルン（各国共産党の国際組織）に組織・活動を誇大に伝えて資金を要求する一方、一一月に東京で行われた陸軍特別大演習の折、将兵に向け「上官に叛け」などの反軍文書を配布、一一月から一二月にかけて全員が検挙され、党は壊滅した。

自由法曹団
民主勢力の反弾圧闘争を積極的に支援する弁護士グループ。神戸の川崎・三菱造船所争議調査をきっかけに、八月二〇日、山崎今朝弥、布施辰治らが中心になって結成。団員数十名。日本共産党の徹底弾圧の始まりとなった昭和三年の「三・一五事件」公判以降、活動を休止するが、第二次大戦後再建、安保反対闘争での活躍を経て今日にいたる。

▲山崎今朝弥（第3列、右から4人目）と布施辰治（2列、3人目）。神戸の造船争議時。

国際ペンクラブ
文筆業者が人種、宗教、政治を超えて平和と自由を求め、精神の価値を守ろうとする国際文化組織。ペンのPは詩人・劇作家、Eは編集者・エッセイスト、Nは小説家の英文のそれぞれ頭文字から取った。イギリスの作家・スコット女史の提唱で一〇月五日、ロンドンに四一人が集合、創立総会を開いた。初代会長は作家のゴールズワージー。日本の参加は昭和一〇年からで、島崎藤村が日本ペンクラブ初代会長だった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1921

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 ㈲エービーシープレス ㈱カマル社 ㈱コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ ㈲マックス ㈲マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊池美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正
●写真協力
奥村健太郎 柏原力 A・M・セディアキン 中山聖 宮崎智雄 横堀洋一 「イリュストラシオン」 木挽社 G・I・P Tokyo 時事通信社 デジタルハウス ノーボスチ通信社 PPS 平凡社 毎日新聞社 マツダ映画社 サントリー 宝塚歌劇団 中村屋 日本郵船 一葉写真館 吉本興業 芦屋市立美術博物館 大宅壮一文庫 ガス資料館 倉紡記念館 交通博物館 国立国会図書館 三康図書館 自由学園 自由法曹団 たばこと塩の博物館 中国文化省 東京都写真美術館 中山岩太の会 日仏会館図書館 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本山岳会 日本写真会 日本漫画資料館 日本郵船歴史資料館 原敬記念館 bpk 兵庫県立美術館 ロシア州立映画写真資料館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。
©講談社 1998（本誌の記事、写真を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます）

HAVAS

"カード派"札入れ

Cardlet ミネルバ

Cardlet®

カードレット

15枚のカードをスリムに収納 ———

従来の札入れは内側にカード段が付いているだけなので、少量のカードしか収納できないのが現状です。しかし今はカードの時代。
多種多様のカードを必携しなければなりません。そこで考え出されたのが"カードレット"。
札入れに差込式のビニール製2段式カードホルダーをとり入れることによって計15枚のカードをスリムに収納することが可能になりました。
サイズも11cm×13.5cmと非常にコンパクト。スーツの内ポケットやスラックスのポケットに入れてお使い頂けます。

●Cardlet®〈カードレット〉 11cm×13.5cm
ミネルバ ¥10,000(税抜) col.ブラック、ブラウン　　ウェルチ ¥13,000(税抜) col.ブラック、ブラウン

［ハバス ショップ］
新宿髙島屋9F 文具売場　Tel.／Fax.03-5361-1594
赤坂東急プラザ2F　Tel.／Fax.03-3595-0558
（地下鉄「赤坂見附」、「永田町」より1分）

"Having Goods"の提案

バッグや革小物といった収納用品が大衆に広く普及したのは工業化社会が到来した今からおよそ80年前。そして現在 ———。
電話やパソコンの携帯化など、身の回りの持ち物に大きな変化が現われてきている一方で、依然としてそのクラシカルなスタイルを踏襲し続けている収納用品に、不都合を感じるケースがではじめています。今、バッグや革小物といった収納用品に求められているのは、"機能・軽量・コンパクト"。私達は従来の型にはとらわれず、機能性と使いやすさを最優先に考えた革新的な収納用品を"Having Goods"というくくりで、世の中に提案していきたいと考えています。『時代に対応した多機能型収納用品の提案』 これがハバスのテーマです。

HAVAS
チャンドラー株式会社
〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-14
Tel.03-3267-3971 Fax.03-3267-5095

雑誌 23714-5/26
Ⓛ-2001/1/1
T1123714050563

©KODANSHA 1998 Printed in Japan
印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社